

「迫り来る首都直下地震」に備える

関東大震災から100年 各地啓発イベント

関東大震災（1923年）から来年で100年になる。地震はいつ、どの程度の規模で発生するか、予想が難しい災害だ。9月1日の「防災の日」にちなみ、各地で防災、減災に関する啓発イベントが実施され、体験学習施設に親子連れらが訪れた。

「迫り来る首都直下地震に備えよう」と9月4日、東京都墨田区の都慰霊堂で「防災フォーラム」が開かれた。テーマは「首都直下地震の被害想定とマンション防災」。

通常、マンションには自主的な取り組みとして理事会や自治会があり、防災計画やマニュアルなどを策定している。パネリストの一人、元板橋区防災課長で跡見学園女子大教授の鍵屋一さんが熊本

地震（2016年）で被災したマンションの住民アンケート調査を分析したところ、マンション内のコミュニケーションの中核となる理事会活動が活発で、リーダーシップを取るキーパーソンがいるマンションほど「円滑な合意形成がしやすく、本格的な復旧工事への取り組みが早い傾向にあった」という。

家具の転倒防止など、室内については、個々に対策を講じるべきだが、高層マンションで在宅避難をするには、壁や柱、はりなどの接合部分に設置して地震の揺れ吸収する「制震ダンパー」の取り付けも欠かせない。「地震から命を守った後も、最低1週間分の停電、断水を覚悟した対策が必要」と鍵

屋さん。大都市を襲った災害では、阪神大震災の教訓を生かすことが大事だ。一般社団法人「日本トイレ協会」運営委員の山本耕平さん「株式会社ダイナックス都市環境研究所会長」は「トイレはすべてのことに優先する」と言う。

当時、神戸市では約600の避難所が開設されたものの、仮設トイレの設置は大幅に遅れた。災害用の組み立て式のトイレの備蓄がなかったため、東京や東海地方の自治体から提供を受けた。ライフラインが復旧するにつれて自宅に戻る人が増えるが、マンションの住民たちが、困ったことの一つがトイレ。予想以上に汚水の排水管が損傷しており、上水道が通っても水洗トイレが使用できないケースが少なからずあった。

「東京直下72時間ツアー」に参加した親子
〓東京都江東区で



東京都慰霊堂で行われた防災フォーラム。今年はマンションの防災対策をテーマに据えた〓東京都墨田区で9月4日

ーに乗り込むと、「下降中に震度7の首都直下地震が発生した」との想定で床が振動し、緊急停止する。エレベーターから降り、停電で暗くなった通路を歩いて行き、被災した街を再現したゾーンへ。入り口で渡されたタブレット端末に示される、防災クイズに答えながら危険箇所を確認し、余

震が繰り返される駅前の商店街や住宅街を進んでいく。その隣は実物展示による避難所で、小型テントや段ボールのついたてなどがあり、避難生活の不便さを想像できる。大規模災害時、国や自治体の支援体制が十分に整うまでの目安は3日、つまり72時間が目安といわ



72時間を生き残る

東京都江東区の東京臨海広域防災公園内にある防災体験学習施設「そなエリア東京」は、地震発生後の「生存力」を身につけるための「東京直下72時間ツアー」を行っている。

体験ゾーンに入り、エレベーター

「人が生活する限り、排せつ物とごみは出る。不衛生は健康の悪化に直結する。災害時、排泄環境を整えることは自治体の重要な役目」と山本さんは強調する。鍵屋さんも、「1日平均5回、トイレを使用するとして、高層マンションの住人がそのたびに避難所などのトイレに行くのは困難。各家庭で災害用トイレの備蓄が最重要」とアドバイスする。現在は、災害用の携帯トイレの開発が進み、ニーズの高い洋式トイレにすっぽり

自治体でも近年、デジタルツールを活用した防災対策を推進している。公式SNSや防災アプリケーショで災害時の危険区域を記した防災マップを閲覧できるほか、周辺の避難所の混雑状況まで把握できるものがある。防災力の向上は、減災につながり、それが人々の命を救う手段になる。

「人が生活する限り、排せつ物とごみは出る。不衛生は健康の悪化に直結する。災害時、排泄環境を整えることは自治体の重要な役目」と山本さんは強調する。鍵屋さんも、「1日平均5回、トイレを使用するとして、高層マンションの住人がそのたびに避難所などのトイレに行くのは困難。各家庭で災害用トイレの備蓄が最重要」とアドバイスする。現在は、災害用の携帯トイレの開発が進み、ニーズの高い洋式トイレにすっぽり

よみうり 大江戸あんしんぶん

第78号

発行: 東京読売防犯協力会
制作: 東部読売会
編集: 東都よみうり新聞社
〒134-0091 江戸川区船場3-7-11
矢島ビル301
03-6663-9010

無料

3年ぶり 対面開催 「首都防災ウィーク」 関東大震災100年を前に 隅田川に架かる橋から震災復興を振り返る講演も

9月の防災週間に合わせて関東大震災や東京大空襲の犠牲者を祀る東京都慰霊堂などを会場に「第10回首都防災ウィーク」(8月27日～9月4日)が開かれた。

関東大震災90年の節目となる2013年に第1回が始まったこの防災イベントは、首都直下地震を想定した都市防災を考えるNPO法人「東京いのちのポータルサイト」、公益社団法人東京都慰霊協会、公益社団法人全国市有物件災害共済会などの民間団体が主体となり、自治体や専門家からも協力を得て実行委員会形式で開催している。新型コロナウイルス感染拡大で2年間はオンライン開催が続いたが、今年はオンラインテレビ局「みらくるT

V」からの動画配信と有観客で実施された。期間中は写真展や音楽演奏などの場が設けられたほか、9月4日は都立横網町公園内のテントブースで防災グッズの紹介や岩手県大船渡市の物産販売が行われ、「防災フォーラム」ではマンションの防災対策をテーマに、都が10年ぶりに見直した首都直下地震の被害想定のポイントや、マンションで起こるトイレ被害の深刻さを見通すべくでないことが伝えられた。

首都直下地震の懸念が増す中、来年で発生100年となる関東大震災の震災復興計画に再び注目が集まっている。甚大な被害によりインフラの再整備を一挙に進めることになった復興事業では、先進的な工法を取り入れるなど土木技術が飛躍的に進歩し、結果的に東京の近代化につながった。なかでも隅田川の橋梁は、復興事業で架け替えられたものが現在まで東京の景観の一部

を成している。4日に慰霊堂で行われた防災講演会「震災復興 隅田川の橋に込めた想い」では、東京都建設局の職員時代に多数の橋梁建設に関わった橋の専門家で『橋を透してみた風景』などの著者でもある紅林章央さん(東京都道路整備保全公社橋梁担当課長)が、災害対策の観点から橋の歴史を語った。

紅林さんによると、関東大震災発生時に東京市内の隅田川に架かっていた5橋(永代橋、

清洲橋、新大橋、両国橋、吾妻橋)は、明治期の鉄橋化や濃尾地震(1891)以降に行われた橋脚の耐震対策などで崩落を免



「首都防災ウィーク」でテントブースが設けられた横網町公園

れたが、以前から交通の重量化に対応する架け替え工事が進んでいたために震災復興事業に組み込まれた。この時に、多額の費用をかけても1橋ずつ異なるデザインにして最先端の機械や新技術を導入したことで日本の橋梁技術を世界トップクラスの水準に押し上げることに成功し、登用された若い技術者らは後に幹線国道整備の架橋事業において全国で活躍した。「隅田川の橋には当時のエンジニアの未来を見据える投資があった」という。

関東大震災を振り返り、災害への向き合い方を学ぶ取り組みは東京都慰霊協会でも進められている。横網町公園内にある東京都復興記念館では眠っていた震災関係の資料などを活用した展示内容のリニューアルを行い、2023年にかけて公開されるという。



慰霊堂で開催された防災講演会で100年前の隅田川の橋と復興事業を振り返った

「大江戸あんしんぶん」は、東京 23 区内の読売センターが発行する、都内の安全・防犯活動に関する取り組みを記事にし、推進する地域の防災活動誌で、東京都内の読売新聞読者に毎月1度、A3サイズ1枚無料配布されます(発行:東京読売防犯協力会)

災害リスクの見える化

～防災DXの可能性と活用に向けて～

主催：日本危機管理防災学会

事務局：株式会社オリエンタルコンサルタンツ



住民、自治体、企業等が相互のリスクコミュニケーションをより円滑に行うため、我が国で加速度的に普及促進がされている防災分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用が期待されています。そこで、本シンポジウムでは、「災害リスクの見える化」と、それを踏まえた「対策の自分事化」について、DXの取組みを含めて多面的に話題提供を行い、住民・企業・行政の自助・共助・公助の観点からより実効性のある防災対策の知識を深めることを目的として実施します。

2022 13:30～17:00

参加無料
申込不要
定員300名
先着順

8/31 水

zoom「みらくルTV」での開催です。
下記URLよりご参加ください。



みらくルTVスタジオ スタジオパスワード:39
<https://us02web.zoom.us/j/3782787584>

開会

- 13:30～ 開催挨拶 市川 宏雄
日本危機管理防災学会会長
- 13:35～ I部 話題提供
趣旨説明
中林 一樹 東京都立大学名誉教授
- 13:50～ 話題提供①
榊 真一 内閣府政策統括官
- 14:20～ 話題提供②
原田 智総 東京都総務局危機管理監
- 14:50～ 話題提供③
加藤 孝明 東京大学生産技術研究所
教授／東京大学社会科学研究所
特任教授
- 15:20～ 話題提供④
平田 京子 日本女子大学教授
- 15:50～ -休憩-

II部

- 16:00～ II部 全体討論 防災行政のDX化の展望
コーディネーター兼パネリスト：
中林 一樹 東京都立大学名誉教授
パネリスト：
芝崎 晴彦 東京都総務局防災計画担当部長
平田 京子 日本女子大学教授
中尾 毅 株式会社オリエンタルコンサルタンツ
執行役員 防災事業部長
- ◆論点1 被害想定の正しい理解に向けた現状の
問題・課題（住民・企業にとって）
- ◆論点2 被害想定の正しい理解に向けた現状の
問題・課題（都道府県・市区町村にとって）
- ◆論点3 防災DX化を取り入れたリスク
コミュニケーションのあり方について
- 16:55～ 閉会挨拶 野崎 秀則 株式会社オリエンタル
コンサルタンツ代表取締役社長

閉会

■ みらくルTV事務局 ✉ koenado@googlegroups.com

■ 日本危機管理防災学会事務局 ✉ crisishp@meiji.ac.jp ■ オリエンタルコンサルタンツ事務局 ✉ bosai_sympo2022@oriconsul.com

【当シンポジウムは第10回首都防災ウィーク（主催：首都防災ウィーク実行委員会 代表：中林一樹／東京都立大学名誉教授）の一環です】

※首都防災ウィークは、例年、東京都横綱町公園、東京都慰霊堂において、関東大震災のあった9月1日を中心に開催されています。
今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、web開催（みらくルTV）となりました。

介護業界の「今」を変える



【拠点案内】 2022年8月時点（展開予定含む）

- 訪問介護** 全国47拠点
（北海道・東北・関東・東海・関西・中国・四国・九州・沖縄）
- 訪問看護** 全国5拠点
（福岡・宮城・愛知・大分・沖縄）
- デイホーム土屋** 全国7拠点
（熊本・下松・吹田・たいわ・真駒内・前橋・名東）



私たち株式会社土屋は、
訪問介護・デイホーム・訪問看護・知的障害施設・研修機関といった
様々なジャンルのケアを通じて“**介護の総合商社**”を目指しています。

医療的ケアを含めた在宅介護を24時間365日体制で提供している
訪問介護部門である“**ホームケア土屋**”を中心に、
更に専門的領域であるナースによる看護との連携のため
訪問看護部門である“**訪問看護ステーション土屋**”と協働しています。

また、高齢者介護・認知症ケアといった側面で“**デイホーム土屋**”を立ち上げ、
地域の皆様に愛される地域包括型のエルダリーケアや
知的障害をお持ちの方と共に活動していく新たなコミュニティも創造しています。

様々なキャラクターをもった方が様々な分野で活躍しやすい職場環境を整えるべく、
その福祉業界への架け橋として、研修機関である“**土屋ケアカレッジ**”も設けています。

様々な分野を横断し、
安心して在宅生活を過ごしていただける
体制を構築しています。
そんな私たち、株式会社土屋を宜しくお願いします。

マスクットキャラクター
『つっちー』



お問い合わせ先

株式会社土屋
<https://tcy.co.jp>

総合
窓口

050-3138-2344

平日9:00～19:00 info@care-tsuchiya.com
〒715-0019 岡山県井原市井原町192-2久安セントラルビル2F



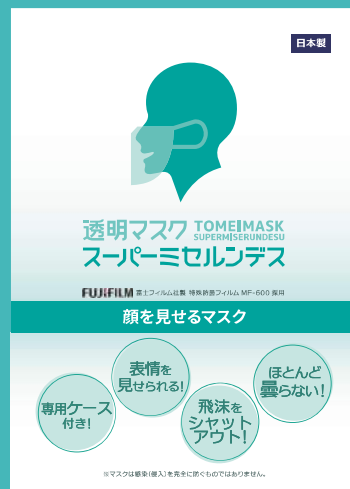
サービスのご依頼
お問い合わせ





らくなマスク屋さん
RAKUNAMASKYASAN

息がらく!
お肌にもらく!
メガネが曇りにくい!



らくなマスク屋さん



楽天市場

それぞれのシーンに合わせられる
豊富なラインナップ!

ジュニアサイズもあります!



オリジナル手拭・伴天・のぼり製作のご相談は



とうきょうわざらし
本社：東京和晒株式会社
〒124-0012
東京都葛飾区立石 4-1 4-9
TEL：03-3693-3334 (企画営業部直通)
FAX：03-3692-0091
URL：<https://www.tenugui.co.jp>

手ぬぐい染め体験のご案内 (立石のみ)

世界でここだけ! 「注染手拭の染め体験ができる」専用スペースを設けました。

- 自分の手で手拭を染めてみたい!
 - 手拭好きの友人へプレゼントしたい!
 - アートの表現方法を拓ける一環として技術を体験したい!
 - 自由研究のテーマにしたい!
- そんなクリエイティブな方へ、「手拭実染塾」「手拭染体験ショートコース」を開設しております。
是非、この機会にご参加されてはいかがでしょうか?

詳細はこちら [てぬクリ工房 https://souzou-kan.info/koubou](https://souzou-kan.info/koubou)



気候変動の影響、自然災害の多発、そして感染症の拡大など、この数年で私たちの社会は目まぐるしく変化し、これまで通用してきた制度や技術、考え方などが、急速にその持続性を失いつつあります。応用地質グループは、地球科学に基づく知見と技術、そして先進的なDXへの取り組みを通じて、未曾有の変化にもしなやかに適応できる、地域・社会における新たなサステナビリティの創造に挑戦しつづけています。是非、バーチャル展示会『OYOフェア2022』で、新たなレジリエンスの方法論を体感してください。

変化への適応力 Resilience



OYOフェア2022
ONLINE EXHIBITION

2022.10.12 WED
— 10.18 TUE

入場無料[事前登録制]
会場：オンライン



—— 人と地球の未来にベストアンサーを。 ——

応用地質株式会社

TEL:03-5577-4501(代表) <https://www.oyo.co.jp/>

[OYOフェア 2022] 特設WEBサイト www.oyo.co.jp/exhibition-oyo-fair-2022/

株式会社 高橋三代志工務店 代表取締役 高橋希輔

〒179-0083 東京都練馬区平和台 2-41-3
Tel. 03-3934-0359
Fax. 03-3934-0360

<http://www27.tok2.com/home/koumu/main.htm>

安心・信頼・感謝 会計・相続・税務お任せください！！ 関根税務会計事務所

所長 関根 俊幸

〒124-0012 東京都葛飾区立石 6 丁目 29 番 13 号
TEL 03-3691-3176
FAX 03-3694-9482
HP sekine-kaikai.gr.jp

～ 安全・安心で魅力ある福祉を目指して ～
一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会

お知らせ

協会のご案内

実績(年次報告書)

講演会・研修

福祉防災認定コーチ

書籍

災害から高齢者、障がい者、乳幼児の
命と尊厳を守る
「福祉避難所」を
応援しています

そのお役に立つため、
これまでのべ15県で研修実績のある
「福祉避難所開設・運営マニュアル」を無償提供します。

ダウンロード版の
お申込みへ ▶

今日を愛する。
LION

第11回 首都防災ウィークでは 協賛金を募集しています

<広告媒体>

記念冊子、Webサイト、みらくるTV放送、
YouTube、関東大震災100年記録動画集

お問い合わせ：首都防災ウィーク実行委員会

木谷正道 kitanimasa4@gmail.com
原 香織 kaorikai@hotmail.com

一般社団法人大船渡市観光物産協会

大船渡の観光と物産



大船渡の美味。

一社）大船渡市観光物産協会のHPはコチラ



あなたと、あなたの大切な人を守るために。



MALCA
Mansion Life Continuity Association

一般社団法人

マンション防災協会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1253
<http://www.malca.or.jp/>

MALCAは、マンション防災・減災のための中間支援組織です。

■MALCAについて

我が国のマンションのストックは約675.3万戸（2020年末時点）、居住人口は約1,573万人で国民の約1割超が居住していると推計されています。

堅固な不燃構造の建物であるマンションは、大地震が発生したとき居住者の生命を守るシェルターとしての役割を果たすなど、一般的には災害に強いとされています。多くの自治体でも、マンション居住者の在宅避難を想定しています。

しかし、電気、ガス、上下水道等のライフラインが途絶する中で、マンション内で生活を継続するためには水や食料だけでなく、燃料、トイレ、医薬品等の備蓄、円満な共同生活維持や衛生管理等についてのルールも必要になります。

また、損傷した建物・設備の復旧には区分所有者の合意のための管理規約の整備も不可欠です。発災時の対応についてのマニュアルだけでなく、予算措置も含む総合的な防災計画を策定、運用できる体制づくりが求められます。

MALCAは企業等の事業継続計画（BCP）と同様の「マンションライフ継続計画（MLCP）」の普及啓発や、地方公共団体と協力してマンションにおける地区防災計画策定も推進しています。あわせて「マンション防災認定管理者制度」を設け、管理組合の防災担当者や自主防災組織等の担い手となる人材育成を行なっています。

■事業内容

1. 人材育成事業

MLCPの考え方、目的、防災計画の策定方法、管理組合等の組織的対応、合意形成ファシリテーション能力の向上、復興・復旧手法等マンション防災に特化したプログラムを準備しています。

2. 普及・啓発事業

機関誌の発行、セミナー・勉強会等の開催、展示会への出展、政策提言、寄稿等を行っています。

3. 認証事業

マンションでの安全・安心・快適な日常生活及び、災害時の防災・減災や生活継続の有効性が認められるものに「MALCA 認証マーク」を付与しています。

4. 調査・研究・受託事業

マンション実態調査、マンションに係る各種研究、マンション防災に係る冊子の制作・監修業務、MLCPの策定支援・監修業務、MLCPをコンセプトとした企画・商品開発・コンサル業務など。

第10回首都防災ウィーク 全体プログラム ◎みらくるTV ★現地ライブ・みらくるTV併催

8月27日(土)	28日(日)	29日(月)	30日(火)	31日(水)	9月1日(木)	2日(金)	3日(土)	4日(日)
◆09:00-09:15 ◎第10回首都防災ウィーク開会式 ◆10:00-11:30 ◎学生の力を活かす新宿戸塚のまちづくり(早稲田大学生・新宿区戸塚の皆さん) ◆13:30-14:30 ◎UIFA JAPONの被災地支援その2「だれがサポートス」の歳月を振り返りつつ ◆14:30-15:30 ◎白井崇陽(ヴァイオリン、全盲) ◆15:30-16:30 ◎今日からできる地震対策チャネル～在宅避難の啓発(防災機器検査協会:江原信之・他)	◆10:00-16:20 ★誰でも囲碁大会【日本棋院】入門講座、棋力アップ中級講座、19路盤・大会、9路盤・7路盤大会【ゲスト棋士】水間俊文八段、岡田結美子六段 ◆19:30-20:30 ◎(株)土屋1～民間主導!在宅要支援者個別避難計画～	◆13:30-14:30 ◎関東大震災写真展1 ◆14:30-15:30 ◎大石亜矢子(弾き語り、全盲)	◆13:30-14:30 ◎関東大震災写真展2 ◆14:30-15:30 ◎片岡亮太(和太鼓、全盲)	◆13:00-13:30 ◎防災専門図書館動画III「探訪(閲覧室編)」 ◆13:30-17:00 ◎防災シンポジウム危機管理防災学会・オリエンタルコンサルタント「災害リスクの見える化」中林一樹、榊真一(内閣府政策統括官)、原田智総(東京都危機管理監)、加藤孝明(東京大学教授)、平田京子(日本女子大教授)ほか	◆13:30-14:30 ◎関東大震災写真展1 ◆15:30-16:30 ◎クイズ「穴あき俳句で考える防災」(「一句多会」藤村望洋ほか) ◆19:30-21:00 ◎「障がいと困窘、そして防災」浅野史郎、柿島光晴、柴本礼、能勢達八、原香織、原安喜子、白井崇陽、岡田結美子ほか	◆13:30-14:30 ◎関東大震災写真展2 ◆14:30-15:30 ◎(株)土屋2～個別避難計画を計画だけで終らせない ◆15:30-15:40 ◎防災専門図書館動画II ◆15:40-16:40 ◎首都を襲う巨大水害—どう生き延びるのか—中瀬勝義(江東区在住)、瀧澤一郎(葛飾区在住)、中林一樹 ◆19:30-21:30 ◎福祉施設防災防災訓練パワーアップTV (一社)福祉協	◆13:00-4日(日)16:00 写真展「被災から10年—UIFA JAPONの見た岩倉町復興への歩み」 ◆13:30-16:00 ★鎮魂と希望の世界音楽祭(東京都慰霊堂) ★大石亜矢子、片岡亮太、山村優子、心の唄バンド(木谷正道、竹DS、丸山泰明、佐野和子)、原香織、MIKUMI、新宿フルートアンサンブル、台北市立啓明学校(盲学校)、韓国KBS音楽学院 ◆19:30-21:30 ◎今、障害福祉を考える 浅野史郎、名谷和子	◆10:00-17:00【横綱町公園】 防災よろず相談・防災クイズ／大船渡物産展／防災出前ワークショップ held by WASEND 2022 ◆10:00-11:30【東京都慰霊堂】 ★関東大震災100年 防災講演「震災復興 隅田川の橋に込めた想い」紅林章央 ◆11:30-11:40 ★口笛の調べ 演奏:YOKO ◆12:30-13:00 ★防災専門図書館動画I ◆13:00-13:30 ★防災フォーラム開会式 ◆13:30-16:00 ★防災フォーラム「首都直下地震の被害想定とマンション防災」～マンション防災の盲点と進め方～(中林一樹、鍵屋 一、山本耕平、木村 孝、瀧澤一郎):マンション防災って誰がやる?トイレはどうなる?高層マンションで火災って発生する?避難所に避難できる? ★16:00-閉会式

編集後記

◆地上には未解決の問題が山積みされています。そして今、首都東京の地下が激しく動きます。

12年前の東日本大震災のとき、皆が「二度と『想定外』という言葉は使わない」と言いました。

首都直下地震は30年以上前に警告され、私たちは阪神淡路、東日本など何度も大震災を体験しました。

もう、政府もマスメディアも私たちNPOもまた、言い逃れはできません。文字通り待ったなしです。

今、何をなすべきなのか？ 自分たちに何ができるのか？ 間に合わないのではないのか？…3か月間、真剣に議論しました。初めてのことです。日本の危機の最終盤で、かつてなく多くの人々が、老若男女、障がいや難病があってもなくても、誠実に、必死に動く姿を、子や孫の世代に伝えよう。

自分たちにできることをやりましょう。楽しく、希望を持って。

木谷正道（首都防災ウィーク実行委員会事務局長）

◆3人の子の母として、日本の未来が心配でなりません。巨大地震や巨大水害など自然災害はもちろん、コロナとワクチンの問題、広大な土地が外国人に買い占められていたり、国の安全、食糧自給、食の安全など…今を生きる私たちがどうにかしなければ、未来へ繋ぐことができなくなってしまう。

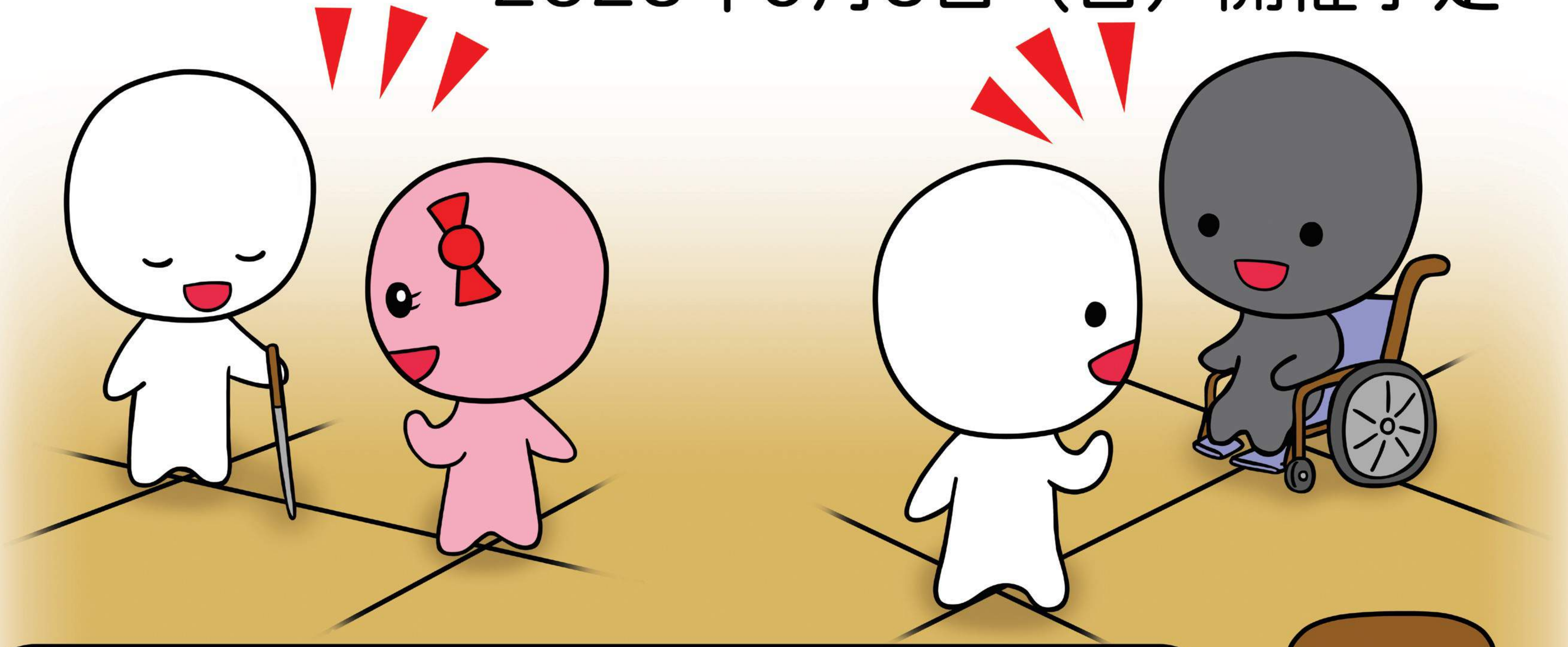
正直、何ができるのかは分かりません。でも、一人の力は小さくても、精いっぱい知恵、未来を生きる子どもたちを思う気持ち、そして仲間みんなで力を合わせそのパワーを拡大していけば、難問を解決していくことができると信じています。次回「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」では、今の日本に何が必要か、私たちは何をすべきなのか…意見の違いを恐れずに、とにかく皆で考え、真剣に議論したいです。自分たちの国は自分たちしか守れない。未来を捨てません。

原 香織（みらくるTV番組編成部長）

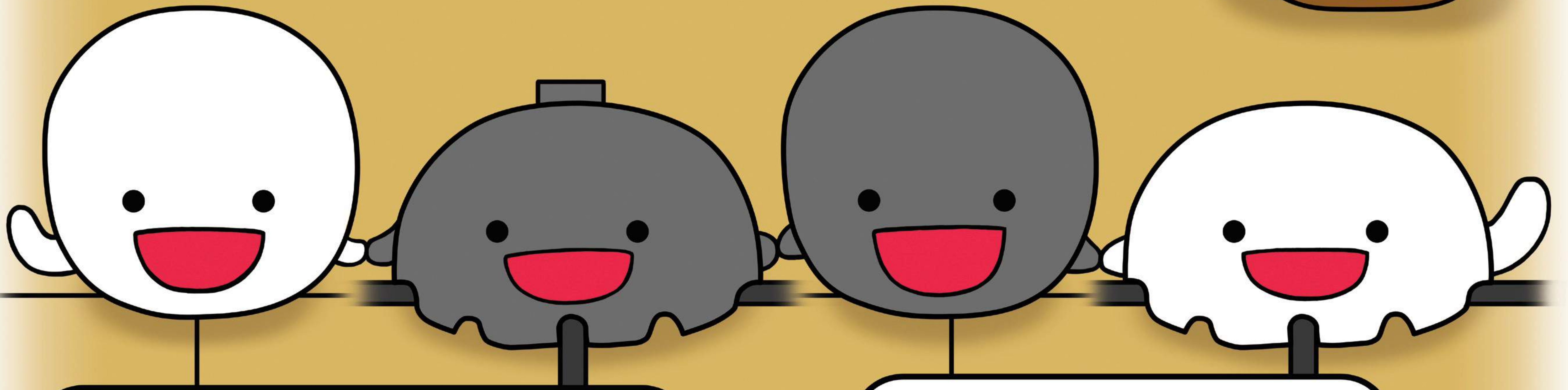
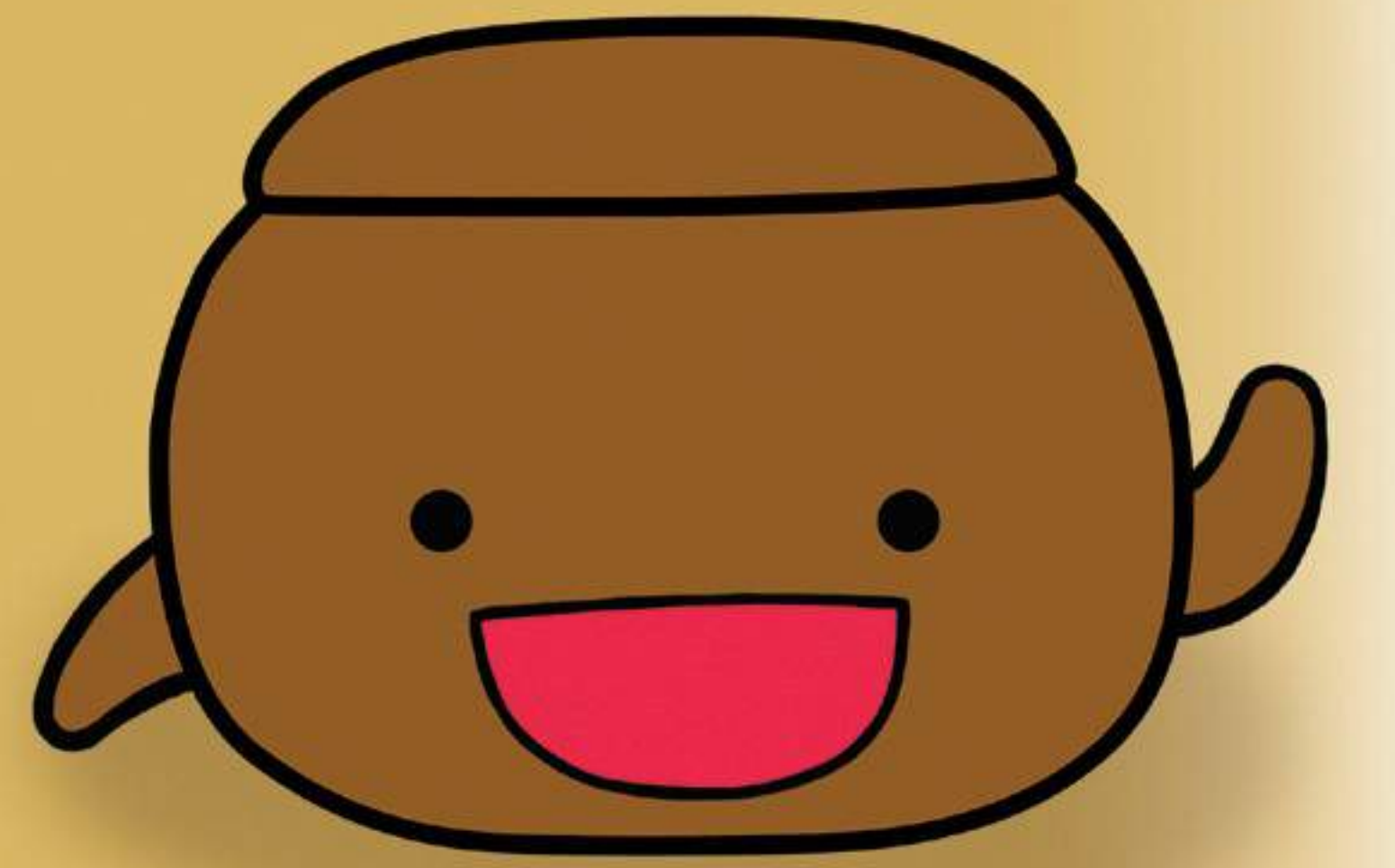


第2回誰でも囲碁大会

2023年9月3日（日）開催予定

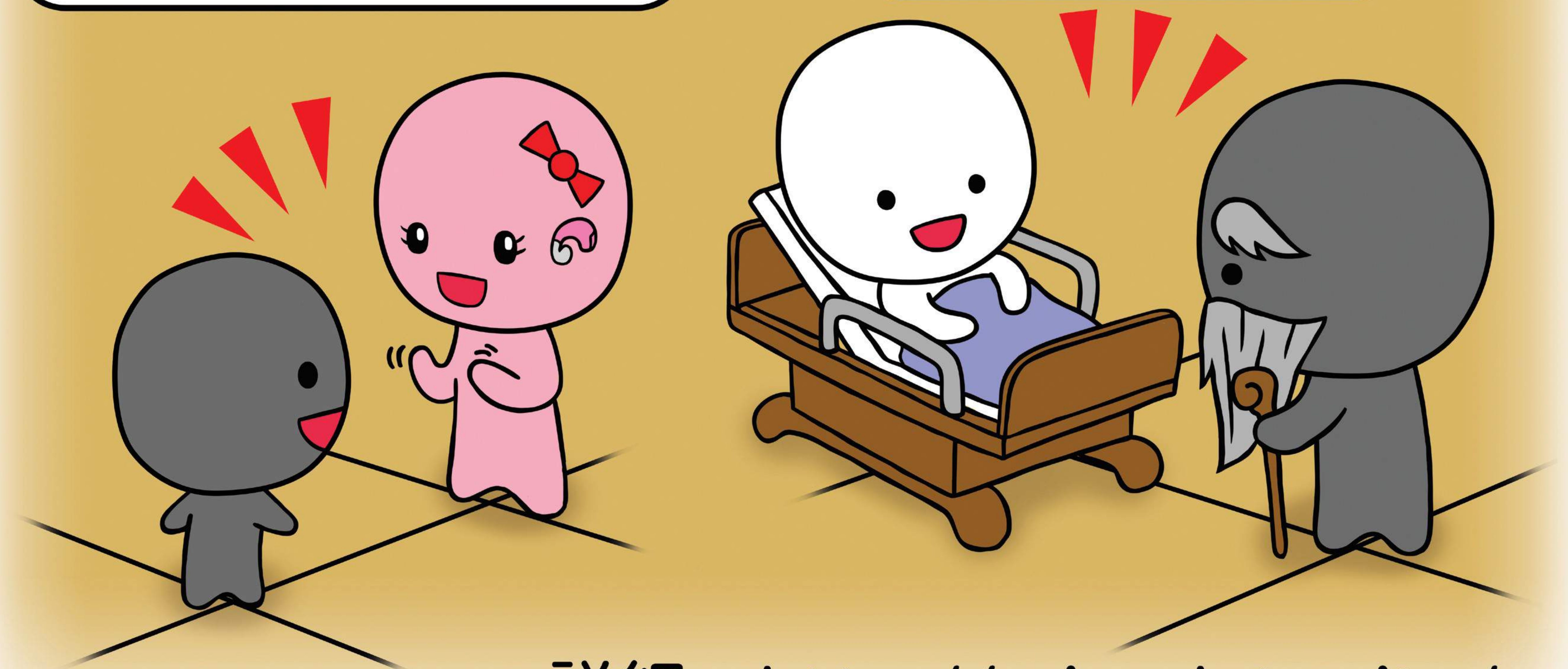


・場所：日本棋院 2 階（定員180人）



・参加費：1000円

・募集開始 5 月



・詳細 <http://miracletv.site/>

令和5年（2023年）10月14日（土）～16日（月）／リアスホール、囲碁神社・音楽神社

第8回碁石海岸で囲碁まつり（予定）

【令和5年（2023年）10月14日（土）】

午後：開会式

記念講演「囲碁で脳力アップ！」（未定）

特別記念フォーラム 「囲碁のまち大船渡」で持続的復興

囲碁ホテル・囲碁旅館 誰でも囲碁大会 音楽神社祭 常設囲碁列車

三大タイトル戦 人工海底山脈 ヘキゴ 誰もが幸せなまち大船渡・・・

記念コンサート：白井崇陽（ヴァイオリン）、大石亜矢子（ピアノ弾き語り）ほか

夕刻：「鎮魂と希望の竹灯かり音楽祭（囲碁神社・音楽神社）」 夜：交流大碁会

【10月15日（日）】「第2回・誰でも囲碁大会 in 大船渡」大船渡・首都圏交流会

第2回「囲碁ホテル・囲碁旅館」大作戦！

全国囲碁ファンの皆様へ

お手持ちの碁盤を大船渡の復興のために活用させてください。

どこに泊まっても碁が打てる「囲碁のまち」へ

碁石地区復興まちづくり協議会会長 大和田東江

【送付先】〒022-0001 大船渡市末崎町字山根 34-39

090-8250-3085 oowada.toko@massaki.jp

「囲碁のまち大船渡」で持続的復興



「囲碁のまち大船渡」（デイセンター、囲碁神社（棋聖戦）、学童クラブ）

第二部 多彩なプログラム

- 「学生の力を活かす新宿戸塚のまちづくり」
見島 正（戸塚地区協議会まちづくり分科会防災アドバイザー／戸塚協働復興研究会世話人）
- 「UIFA JAPON の被災地支援その2「誰フォトニュースの11年」」
稲垣弘子（UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）監事／首都防災ウィーク実行委員）
- 「今日からできる地震対策ー地震時の室内の安全化ー」
江原信之（（一社）防災機器検査協会会長）
- 「みんなで助かろう！～(株)土屋の防災」 原 香織（（株）土屋防災委員会）
- 「関東大震災写真展その1・2 被災写真からたどる東京下町六区」
小藺 崇明氏（東京都慰協 関東大震災 100 年事業担当調査研究員）
- 「灯」 大石亜矢子（シンガーソングライター、全盲）
- 「私にできること」 片岡 亮太氏（和太鼓奏者、パーカッショニスト、社会福祉士）
- 「防災専門図書館紹介動画および東京都復興記念館特別展への共催」
（公社）全国市有物件災害共済会
- 「災害リスクの見える化 ～防災 DX の可能性と活用に向けて～」
中林一樹（首都防災ウィーク実行委員会代表／東京都立大学名誉教授）
- 「クイズ『穴あき和歌・俳句』で考える古代からの地震・津波」
藤村望洋（俳句「ARC セッション」主宰／NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長）
- 「障害って何？、障害者って誰？」
浅野史郎（元厚生省障害福祉課長・元宮城県知事・（株）土屋総研特別研究員）
- 「防災鼎談「首都を襲う巨大水害ーどう生き延びるかー＜趣旨説明＞」」
中林一樹（首都防災ウィーク実行委員会代表・東京都立大学名誉教授）
- 「首都を襲う巨大水害ーどう生き延びるか」
中瀬勝義（江東5区マイナス地域防災を考える会/江東区在住）
- 「福祉施設防災 防災訓練パワーアップTVで参加」
高橋 洋（（一社）福祉防災コミュニティ協会副理事長）
- 「『第1回誰でも囲碁大会』を主催して」
柿島光晴（誰でも囲碁大会実行委員長、（一社）日本視覚障害者囲碁協会代表理事、全盲）
- 「第1回誰でも囲碁大会」
岡田結美子（公益財団法人日本棋院 棋士六段／誰でも囲碁大会実行委員会副委員長）
- 「誰でも囲碁大会に参加して（高次脳機能障害者と家族）」
柴本 礼（高次脳機能障がい当事者家族、イラストレーター、東京高次脳機能障害協議会理事）
- 「第1回誰でも囲碁大会アンケート～聴覚障害者 Ver.」
- 「首都と大船渡との『鎮魂と希望の竹灯かり連携』」
木谷正道（首都防災ウィーク実行委員会事務局長、碓石海岸で囲碁まつり実行委員長）

学生の力を活かした新宿戸塚のまちづくり

児島 正

戸塚地区協議会まちづくり分科会防災アドバイザー／戸塚協働復興研究会世話人



はじめに

1日ビンカン100本、煙草700本を捨てる高田馬場駅ロータリー広場。早稲田大学ロータリー会末永代表と武村フォーステック社長が、スマホ（IoT ゴミ箱）導入のプロセスを説明。末永代表の高田馬場駅ロータリー、歌舞伎町シネシティ広場の夢。腕まくりして署名活動する声が！

古澤戸塚地区町会連合会副会長は、町会・自治会・商店街へ共同提案の根回し中。

本多新宿戸塚地区協議会会長は、「まちがきれいなのはうれしい。80代半ば恩返したい。学生と交流を。社会に出て世界で活躍。青春時代を過ごす学生街をいつまでも愛して欲しい。」と語る。

白吉新宿ホームタウンプロジェクト代表は、「ゴミのない美しいまちは、安心・安全なまち。子育て世代の共感を呼ぶ。」と発言。

白吉&船切さんのお散歩会・ぐるり（物々交換会）・初めてのお使いは、子育て世代と地縁の糸を紡ぐ素晴らしいコトづくりだ。

矢口先生から①多世代・多文化が集う場として大学がいい。②担い手づくり。楽しいコトづくりで可能。③ゴミ問題は共感を呼ぶ。循環型社会の先進事例に。

佐藤滋早稲田大学名誉教授はゆるやかに繋がる場づくりの必要性和橋渡し役の不在を指摘。

学生の①高齢世代のまちづくりにかける熱意に心を打たれた。②人生の先輩の生き方・生きた知恵を学んだとの感想がうれしい。

会議概要

1. 日時：令和4年8月27日（土）：10:00～11:30
2. 場所：早稲田大学理工学部カンファレンスルーム
3. 司会：新宿ホームタウンプロジェクト：白吉健展・代表 & 船切ゆうき（補助：児島・泉端）
4. 会議内容
10:00～ 新宿ホームタウンプロジェクトの説明

住・学・働・遊の地縁があるみんなが、新宿をまるで卒業した母校」のように思い、親しみを持つ街に。

10:15～ 早稲田大学・矢口哲也研究室

学生街とまちづくりにかける夢

10:25～ 末永誠悟早稲田大学ロータリーの会代表&竹村陽平フォーステック社長

町会・自治会・商店街との高田馬場駅前広場「ゴミ箱設置」共同提案の夢

10:40～早大防災教育支援会・応援団（児島・泉端）

地震・津波と洪水に強い担い手が育つまちに。

10:45～11:30 井戸端トーク（学生への熱いエール）謝辞

実会議とズーム。多世代・多文化の方が交じり合う。矢口先生と研究室学生さんのサポートで夢が実現。

武村社長は出張先から多忙な合間を縫いZOOMで参加。末永代表をフォロー。

早大防災教育支援会の辰濃・廣瀬さんは、首都防災ウィーク9月4日市民向けイベントに初参加。東京都慰霊堂・震災記念館を案内。いずれ活かす日が！

みなさまに感謝あるのみである。

本多・古澤さんは80代半ば過ぎ夢を追って若い。お二人の手足がセカンドライフの夢！

児島 正（こじま ただし）

現在の活動：戸塚協働復興研究会世話人、戸塚地区協議会まちづくり分科会防災アドバイザー、戸塚地域福祉協議会、新宿まちづくりの会会員、横浜市港北区災害ボランティア連絡会会員、日吉セカンドライフの会Ⅱ代表、損保OB・OG有志の会事務局、稲むらの火みらいPJ事務局、チーム防災赤ずきんちゃん事務局（静岡）、銚子「稲むらの火」防災教育プロジェクト。

UIFA JAPON の活動と首都防災ウィーク

稲垣弘子

UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）監事／首都防災ウィーク実行委員



1. UIFA JAPON の被災地支援活動

（１）2004 年「災害復興見守りチーム」を発足。

UIFA トゥールーズ大会後の 2004 年 10 月中越地震が発生し、「災害復興見守りチーム」を発足した。「寄り添う」「連携する」「自立を支援する」をコンセプトに被災地支援活動を始めた。

（２）「どこでもカフェ」プロジェクト

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生。10 月から岩手県岩泉町の仮設住宅集会所で「どこでもカフェ」を開催。衣類や日用品などの支援品を持ち寄り、お抹茶やコーヒーを提供。被災者に寄り添い、少しでも心のケアになればとの思いから始めた。福島県郡山市、本宮市、埼玉県加須市、東京都大島町、熊本県御船町、西原村へと展開。大船渡市では「碁石海岸囲碁まつり」。

（３）「だれでもフォトグラフィ」プロジェクト

「支援されるだけでなく、自分達も活動したい」という住民からの声で、被災者自身での写真記録を残そうと始まった。使い捨てカメラの提供を受け、プロカメラマンの指導のもと、合評会、展示という一連の活動を支援した。活動の目的は、①復興のプロセスを自分達の身近な生活の中から記録し、復興の後押しをする。②写真を撮影するなかで、ふるさと岩泉の魅力や誇りを再発見し、絆を深める。③岩泉町の「いま」の姿を世界に知らせる。カメラを持ち歩き、撮影することで、見慣れたふるさとの風景もまた魅力的に見え、自分達の誇りにつながることとなった。徐々に自主活動に移行し、2014 年 5 月、合評会の日程連絡などで「だれフォトニュース」を開始、UIFA-J 会員 9 名が交代で 2 ヶ月に 1 回発行、岩泉町との交流の大切なツールとなった。第 10 回首都防災ウィークの「みらくる TV」で「岩泉町だれでもフォトグラフィの活動—だれフォトニュースの歳月を振り返りつつ—」を

発表した。継続の大切さが伝われば幸いです。

（４）住宅相談カフェ

2013 年 2 月から福島県新地町での住宅相談会に参加した。2016 年 4 月熊本地震が発生し、被災地の御船町町長との談話から「高齢者向けの復興住宅プラン集」を作成し「住宅相談カフェ」を開催した。お抹茶を飲みながら、復興過程の時期に応じた勉強会や個別相談会を開催した。

2. 巡回写真展

「被災から 10 年—UIFA JAPON の見た岩泉町復興への歩み」写真展を 2011 年 3 月から開催した。住民でない私たちの眼で記録し、被災から復興へと歩むまちの様子を客観化してみようとする試み。岩泉町内で 3 か所、盛岡～名古屋まで 15 か所巡回した。今年的首都防災ウィークで 9 月 3 日～4 日横網町公園慰霊堂内に展示。

訪れる方々が熱心に鑑賞し、アンケートにも岩泉町を激励するメッセージが多数寄せられた。



（展示作業終了後）

3. 「災害に備える住まいづくりの勘所」小冊子づくり

自然災害が多発し、首都直下地震や東南海地震の発生が懸念されている。被害を最小限に抑えるためには、事前の備えが必要だが、なかなか進んでいない。一般の人々にも分かり易い「災害に備える住まいづくりの勘所」と言う小冊子の作成に取りかかっている。新築時やリフォーム時に役立ち、暮らし方の工夫で、命を守り、街を守る一助になることを願っている。

稲垣弘子（いながき ひろこ）

元駒沢女子大学教授、UIFA JAPON（国際女性建築家会議 日本支部）監事

今日からできる地震対策

—地震時の室内の安全化—

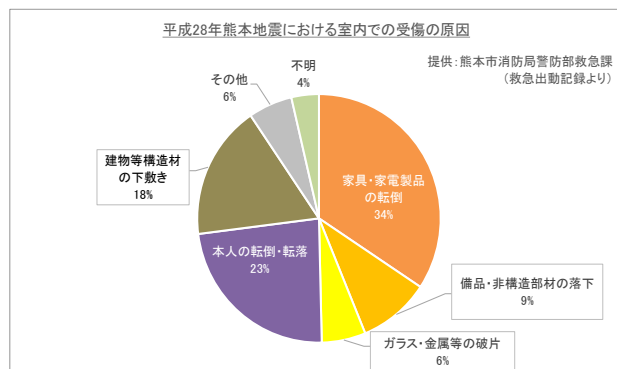
江原 信之

一般社団法人防災機器検査協会会長



1 なぜ家具類の転倒防止が必要か

過去の地震による怪我人の発生状況を見るとタンスや本棚等の家具の転倒による受傷原因が3割から5割を占めています。高層建物のように建物が倒壊しなくても、長周期地震動の長く大きな揺れの結果、室内の被害が甚大になることも予想されています。私たちが直ぐにもできる身近な地震対策として家具類の転倒防止対策をお勧めします。



2 地震時の危険性の検証

当団体では平成29年度から令和3年度まで文部科学省の「首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト」での、国立研究開発法人 防災科学技術研究所が実施する実大実験に参画し、地震時の室内環境や危険性を検証しました。

その結果、転倒防止措置を実施していない家具類は転倒し、本棚は収納している書物が落下するなど顕著な被害が確認できました。また、二段ベッドや組み立て式の棚等も強い地震の揺れにより崩壊するなどの被害が認められました。

高層階のマンションを想定した実験では、食器棚が転倒し、照明器具が長い時間揺れが続くことを確認しました。たとえ建物が安全であっても、室内の地震対策を実施しないと家具や家電製品の転倒、移動等により受傷する危険性が高くなることが改めて検証できました。



3 家具類の固定のポイント

このような地震時の被害を防ぐための家具類の固定のポイントを以下に示します。

- (1) 書籍の落下防止には棚板にゴムシートが有効。また書籍と書棚の高さを合わせることも落下防止に重要
- (2) テレビの転倒防止はテレビとテレビ台を固定する。またテレビの背面と壁を固定し、更にテレビ台を床に固定することで効果
- (3) 突っ張り棒の取り付けは、壁側に正しい向き（縦向き）に取り付ける
- (4) キャスター付きのラック等は、対角の2輪をロックすることで転倒を防ぐ
- (5) 段ボールをタンスと天井の隙間を埋めることで家具の転倒を防ぐ（けがをしない時間を稼ぐ）
- (6) 家具の底に敷く転倒防止マットは、突っ張り棒などと組み合わせ、家具の上下を固定する

4 在宅できる地震後の生活のために

以上のように、地震後に自宅で生活を維持継続させるためには、家具類の固定による普段からの備えと、地震により怪我をしない室内安全の環境づくりが重要です。

江原 信之（えはらのぶゆき）

（元東京消防庁震災対策課長）



(株)土屋 HP

「みんなで助かりよう！～(株)土屋の防災」

(株) 土屋防災委員会 原 香織

1. 民間主導！周りを巻き込む在宅要支援者の個別避難計画の形
2. 個別避難計画を計画で終らせない

出演：(株)土屋防災委員会（岡田千秋、古本聡、原香織）、名雪健司、中林一樹



1. 民間主導！周りを巻き込む在宅要支援者の個別避難計画の形

(株)土屋では防災の取組みを、クライアント(ご利用者)を中心とした、その方が生活する環境を守りながら、それまで交流があった方、なかった方とも積極的に関わり合う場を持ち、『みんなで災害時に対する意識を高め合い、みんなで助かりよう！』という考えの基、進めています。いわゆる、インクルーシブ防災といわれる考え方ですが、そのためにはどんな準備が必要か、オリジナルの『災害対応パーソナル BOOK』を用いて個別避難計画を作成しています。

クライアントとアテンダント(介護者)が互いに協力しながら、そのクライアントの為のオリジナルの災害対応パーソナルBOOKを作成する事で、元々は防災に関心が薄かったアテンダントの意識の向上にもなり、加えて、事前の準備をしておくことで、アテンダントの命、他の支援者自身の命が守られることにもつながると、私たちは考えています。

障害者や高齢者に災害の話をする、「どうせ助からないんだから」「どうせいつかは死ぬんだ」というように、初めから助かる方法を探そうとしない方も多くいます。しかし、それをそのままにしてしまえば、その方の支援に入っている人までもが災害に巻き込まれ命を落としてしまう恐れがあります。

そうならないためにも、私たちは、クライアント一人ひとりについて、その方の居住環境に合わせたオリジナルの個別避難計画を作っているのです。

2. 個別避難計画を計画で終らせない



上のカットシーンは、災害対応パーソナル BOOKの第二章で行う災害対応訓練の様子です。

第一章で現在の自分の状態(身体のこと、災害準備品のこと、避難する時に持ち出すもの、災害時に配慮して欲しいこと等)を書き込み、第二章では、実際の災害を想定し、その状況下でどのような行動を取るかシミュレーションをしていきます。しかし、「支援する人のチーム作り」「実際に災害が来たら何をもちどこへ逃げる」など、事前に決め入念に準備・計画していても、実際に訓練をしてみると想定外の事が起きたりもします。

実際に身体を動かし訓練をすることで、新しい課題や確認不足の項目が見えてきます。そこで、「一回の訓練を完璧なものにする必要はない、むしろ、課題をどんどん出して次につなげよう！」というのが土屋の防災のスタンスです。

土屋のクライアントには、医療機器を常時使用しなければならない方や、医療機器を使用していなくても、体温調整ができないなどの理由で常時電力を必要とする方が多くいます。発電機・蓄電池の準備を進めることや、避難時、支援者に掛かる負担を可能な限り軽減し安全に避難できる方法を日々考え、誰一人取り残さない防災の形を考えて行動しています。



被災写真からたどる東京下町 6 区

小園 崇明

(公財) 東京都慰霊協会 関東大震災 100 年事業担当調査研究員



1：はじめに

来年 2023 年は関東大震災から 100 を迎える。それに向けて東京都慰霊協会では関東大震災 100 年事業の一つとして、昨年度から復興記念館に所蔵される関東大震災関係写真（絵葉書を含む）の整理をおこなっている。資料整理から復興記念館には 5,000 枚以上の写真が存在することが判明した。また、その中間報告として、「関東大震災写真展～被災写真からたどる東京下町 6 区～」（復興記念館、2022 年 3 月 1 日～6 月 5 日）を開催した。本稿は、その成果をふまえ関東大震災時、最も被害の激しかった、旧東京市 6 区（神田・日本橋・京橋・浅草・本所・深川）の写真を紹介する。

2：東京市の被害と写真

関東大震災は、東京市・横浜市を中心に死者約 10 万 5 千人に及んだ大災害である。東京市内（旧 15 区）では、地震直後に 134 か所から出火し、約 44% が焼失した。市内の死者数約 6 万 8,000 人のうち、95% 以上が火災による犠牲である。そのなかでも特に被害が大きかった区域が、焼失率順でいうと、日本橋区（100%）、浅草区（96%）、本所区（95%）、神田区（94%）、京橋区（86%）、深川区（83%）である。市内の焼失面積のうち、約 77% がこの 6 区に集中した。また、市内の死者数も 96% 以上がこの区域に集中、その数は約 6 万 6,000 人に及んだ。

区名	写真の枚数	写真の割合	焼失率 (%)	焼失面積 (㎡)	区の全面積 (㎡)
日本橋	165	9.90%	100.00%	2,964,390	2,964,390
浅草	250	15.00%	95.96%	4,613,160	4,807,498
本所	379	22.74%	94.77%	5,759,124	6,076,846
神田	157	9.42%	93.88%	2,885,732	3,073,898
京橋	153	9.18%	85.92%	3,905,223	4,545,296
深川	65	3.90%	83.15%	6,596,618	7,933,421
下谷	146	8.76%	47.69%	2,406,063	5,045,018
芝	74	4.44%	23.82%	2,236,403	9,389,808
麹町	223	13.38%	22.19%	1,810,714	8,159,015
本郷	20	1.20%	17.64%	851,375	4,827,547
赤坂	15	0.90%	7.23%	305,385	4,226,030
小石川	4	0.24%	4.08%	265,283	6,494,823
四谷	5	0.30%	2.17%	60,152	2,771,597
牛込	6	0.36%	0.06%	3,084	5,211,590
麻布	5	0.30%	0.04%	1,544	3,971,544

表「東京市の区域別焼失率と写真数の比較」

表は、復興記念館所蔵写真の点数と東京市区域別焼失率の比較であるが、比較的被害が大きい地域の写真点数が多いことがわかる。ただし、焼失率の低い麹町区や下谷区の写真点数も多く、焼失率の高い深川区の写真点数が少ない。つまり、必ずしも被害の大きさと写真の点数は比例しない。

3：下町 6 区の写真の特徴

6 区において区ごとに撮影対象の最も多い写真を列挙すると、深川区―永代橋、京橋区―銀座通り、日本橋区―日本橋通り、神田区―万世橋駅、浅草区―十二階、本所区―被服廠跡となる。



写真「震災直後の被服廠跡」

これらの写真の特徴を考えると、永代橋や被服廠跡は犠牲者が多いことから死を象徴する場所である。万世橋駅は交通の要所であり、その焼失は生命の危機を想起する。こうした生死に関わる写真が多いのは、震災の惨状の大きさを物語るのに大きな役割を果たしたと思われる。

生死に関わる写真以外では、銀座通りや日本橋通りは富を象徴する場所として、浅草十二階のような巨大建造物は文明の象徴として、それぞれとらえることができる。行き過ぎた経済の繁栄や科学技術の発展など、これらは奢った西洋的な価値観への批判ともとらえられるのではなかろうか。

1979 年生まれ。2014 年、専修大学にて学位取得。歴史学博士。専門は日本近現代史。

灯

大石亜矢子

シンガーソングライター、全盲



数年前、北区のイベントで、参加者の皆さんと「故郷」を歌った。

その後、一人の方がこう話してくださった。

「私は東日本大震災の後、福島から避難して来ました。故郷を聞いたり歌ったり出来なくなりました。震災前の福島の景色、日常を思い出してしまう。そして、震災の時のことも同時に離れない。涙が出るんです。でも今歌えました。皆さんと手を繋いで歌うことが出来たんです」と。それを聞いて、皆で涙し、頑張ってきたそれぞれをたたえ合った時間となった。

東日本大震災の時、私はお産を控えて実家にいた。東京にいる主人、そして友人たち、東北で、混乱と不安、恐怖の中にいる人々のことを思った。テレビやラジオからの情報から、どんどん被害の大きさが伝わって来る。

私の実家がある静岡県沼津市でも余震が頻繁に起きて、町の放送からは津波警報のアナウンスが流れた。

私は、この子を産み育てて行けるだろうか？ 不安でいっぱいだった。そんな時、電話の向こうで主人が言ってくれた。

「こんな時だからこそ生まれてくる子には意味がある。何があっても折れない、強い心の持ち主になってほしいよね。そして、人の痛みに寄り添える人になって欲しい」 私は頷いた。

主人は、娘に「こころ」と名付けた。震災から四日後、計画停電の中、娘を出産した。風が強い晴れの日の午後だった。大きな窓から日差しを感じる。風が窓にぶつかっている。

先生も助産師さんもデジタルの機械が使えないので窓からの光と懐中電灯で私たちの処置をしてくれた。私はこんな風に、安心できる場所でお産ができた。娘も無事に生まれてくれた。

でも被災地ではどうだろう。妊婦さん、子供たち、障害者、お年寄り、もう、皆少しでも暖かく過ごしていて欲しい。無事でいて欲しい。気がつくとなれば祈っていた。

東京にいた主人は、ギューギュー詰めの新幹線で駆けつけてくれた。震災のあった日は、職場に皆で泊まったそうだ。

次の日、帰宅した。エレベーターが泊まっていて偶然同じ階に住んでいる方と一緒に5階まで階段で上がった。

家に入ると、棚の物が落ちたりしていた。コップやお皿がいくつか割れてしまったけれど幸い大事にはいかなかった。近所の方々が心配してくれて声をかけてくれたり、夕ご飯を届けてくれたりと、親切にしてくださったそうだ。

実家にいる私たちも、近所の人たちとお互いに声を掛け合ったり、情報交換をし合っていた。

人との繋がりありがたい。そして、人との距離を縮める、心を動かす力があるのが「音楽」だと思う。

五感と記憶は結びついている。人の声や言葉、音によって、脳に刺激が加わる。心に灯が灯される。それはなぜだろう？ 人が奏でているからではないだろうか？

震災後私の音楽仲間は被災地に演奏に行った。復興のためのチャリティーコンサートを開催した人もいる。

音楽では、がれきを片づけたりお腹を満たしたりはできないけれど、そっと心に灯を灯して、生きる希望の基になるのではないだろうか。

大石亜矢子（おおいし あやこ）

静岡県沼津市出身 武蔵野音楽大学声楽科卒業
ソロによる歌唱の他、ピアノの弾き語りによる演奏活動を行う。アイメイトのイリーナと共に盲導犬の啓発活動も行っている。夫であり、全盲弁護士の太田誠と共に「全盲夫婦によるトークアンドコンサート」を各地で開催。一人ひとりの心に寄り添い、夢や願いをうたう、即興の「オーダーソング」は神技というべきだろう。Zoomを使ったテレビ局みらくるTVにて毎週土曜日 14:30 から番組配信中。 <http://miracletv.site/>

私にできること

片岡亮太

和太鼓奏者/パーカッショニスト/社会福祉士、全盲



2011 年の 3 月 11 日、私はアメリカのニューヨークにいました。新たな学びと挑戦を求め単身渡米し、約 2 ヶ月が経った頃のことでした。現地時間の午前 4 時半。大学院の授業の準備のために目覚め、パソコンを開くと、そこには発生から 1 時間ほどが経過した、東日本大震災のことを伝える家族からのメールが届いていました。

私の地元は静岡県。震源地から遠く離れているとはいえ、何が起きるかわからない。とにかく無事でいて欲しいと返信し、情報収集に努めました。

NHK がテレビ放送をウェブ上にリアルタイムで公開していることを知り、アクセスしてみると、地震や津波の続報と、深刻な被害を告げる声、そして緊急地震速報の音が流れ始める。それらに耳を傾けながら、初春のマンハッタンの外気で冷え切ったアパートの室内で、寒さだけではない何かに震えていたことを、今でもよく覚えています。

それから数日後の朝。連日、コロンビア大学の大学院で学ぶ日本人を中心とする団体の一員として、募金等の活動に参加していた私は、耳にし続けていた被災地のニュースと、「もしあの瞬間、東北にいたとしたら、全盲の僕は助かっただろうか？」という想像が頭を巡り、ベッドから起き上がれなくなりました。

これはおかしいと思い、震災の情報を遮断するため、横になったままヘッドフォンをつけ、好きなアーティストの DVD を再生しました。聞きなれた音が心と体に染みわたる。気づいたら号泣していました。そして、再び「できることをしよう」と考えていました。

その後私は、ニューヨーク市内を中心に、被災地支援のために開催された多くのイベントからの依頼を受け、和太鼓奏者として協力させていただくことになります。そのいくつかでも共演した、現在の妻であり、音楽のパートナーでもあるジャ

ズホルン奏者で作曲家の山村優子から、ある時こんなことを言われました。

「音楽は怪我や飢えを癒すことはできないけれど、人の心に寄り添うことならできる。」「あなたが 10 歳で失明してから、これまで歩んできた姿は、被災して多くのものを失った人たちが勇気を湧きあがらせるきっかけになるかもしれない。」「阪神大震災で自宅が全壊するという経験を持つ彼女の言葉には、ハッとさせられる説得力がありました。

あれから 10 年以上が経ち、国内外の舞台を踏ませていただいている現在、私の中に、「誰かを励ましたい」という目的意識があるわけではありません。ですが、自らの表現に真剣に向き合い、全力で伝える音楽と言葉には、聞いてくださる方にとって、励ましや勇気、希望の種となり得る光が宿る、そう信じ、活動しています。

その思いを持ち続け、災害はもちろん、戦争や、日常の中で抱く痛みによって疲弊してしまった心に触れうる表現者であること、そして、私自身を含めた障害のある人をはじめ、有事の際に「災害弱者」と呼ばれてしまう人たちが、本当に弱者になってしまわない社会を実現するための一役を担うこと。それが私にできる防災への取り組みです。

1984 年生まれ。2007 年、上智大学文学部社会福祉学科首席卒業、社会福祉士の資格取得。同年よりプロ奏者としての活動を開始。2011 年、ダスキン愛の輪基金「障害者リーダー育成海外研修派遣事業」第 30 期研修生として 1 年間単身ニューヨークで暮らし、ライブ、イベント等への出演や、コロンビア大学内の教育学専攻大学院にて障害学を学ぶなど研鑽を積む。

「防災専門図書館」紹介動画および 東京都復興記念館特別展への共催について

公益社団法人 全国市有物件災害共済会 防災専門図書館



1. 防災専門図書館について

防災専門図書館は、公益社団法人全国市有物件災害共済会が実施する事業の一つとして、1956年7月に東京都千代田区において開設しました。

防災・災害に関する資料を17万冊所蔵し、その蔵書を活用して、住民の防災意識の向上に貢献することを目的としているので、どなたでも無料で利用できる図書館です。

電話・メールでのお問い合わせも受け付けていますので、気軽にご連絡ください。

2. 首都防災ウィークでの図書館紹介動画の放映

首都防災ウィークでは、防災専門図書館の紹介動画を3本放映しました。いずれも中林一樹先生主演で、利用者に扮していただいた「探訪」編、閲覧室で所蔵資料について解説くださった「閲覧室」編。そして先生から寄贈いただいた資料群「中林文庫」をもとに、研究人生を語ってくださった「中林一樹先生と「中林文庫」」編。どの動画も防災研究の第一線で活躍されてこられた先生の想いが溢れ、また当館の特徴が良く分かる内容になっています。YouTubeでも公開していますので、ぜひ御覧ください。YouTubeへのアクセス方法は表紙裏ページをご覧ください。

3. 東京都復興記念館とのコラボレーション

江戸時代中頃から、地震が起きるのは地中にいる鯰（ナマズ）が暴れたためだ、とする民間信仰がありました。その鯰にスポットを当てた特別展が東京都復興記念館で開催されています（会期：8/30～12/25。横綱町公園内）。

防災専門図書館は、この特別展「令和4年秋季特別展「関東大震災と地震鯰」」に共催し、所蔵する「かわら版」から鯰に関係する3点を提供したところ、記念館の調査研究員の手により解説パネルとなりました。そのうちの一枚が図1です。

かわら版の右下には龍（龍蛇）が描かれており、

動きを鎮めるための「要石」が頭部に乗せられています（鯰より以前は龍が地震の原因だとされていました）。地震という厄災から逃れたい、そんな古今東西変わらぬ人々の願いがこもっています。

当館では、このようなかわら版90点を含め、デジタル化した資料をHPで公開しています。データの利用希望の方は、当館までご連絡ください。図書館のご利用をお待ちしております。



図1 当館所蔵のかわら版を利用した展示パネル

かわら版「萬歳樂鯰大危事」

（出典：復興記念館令和4年秋季特別展

「関東大震災と地震鯰」パンフレット）

防災専門図書館

住所：東京都千代田区平河町2-4-1

日本都市センター会館8階

電話：03-5216-8716

メール：lib.bousai@city-net.or.jp

開館日：平日9時～17時



図書館 HP



Twitter

（執筆：矢野陽子）

災害リスクの見える化 ～防災 DX の可能性と活用に向けて～

<趣旨説明>

中林一樹

首都防災ウィーク実行委員会代表／東京都立大学名誉教授



1. はじめに

新型コロナは、日本の情報技術と活用環境を大きく進展させた。時代はDX(デジタルトランスフォーメーション)に向かっている。しかし、デジタルによる映像技術の進歩も、人間の事態の認識とその想像によって人々に正しく受け取られるのではない。

このシンポジウムのポイントは、防災デジタル技術そのものではなく、東京都の新しい首都直下地震被害想定(2022)を踏まえ、災害状況の“見える化”について、使う側(行政)と受け取る側(都民)がどう役立てて防災対策や備えを進展させるかを考えたい。どのように見える化すれば、個々人が災害のリスクをどう“自分事”として見てくれるか、これが本シンポジウムの趣旨である。

被害が最大となる東京都心を襲う地震モデルを、プレート境界型の東京湾北部地震から、より深くに発生するプレート内部型の都心南部直下地震に変更したため、震度6強以上の強い揺れのエリアが1割も減少した。

東京湾北部地震(2012)と都心南部直下地震(2022)の想定震度分布の比較

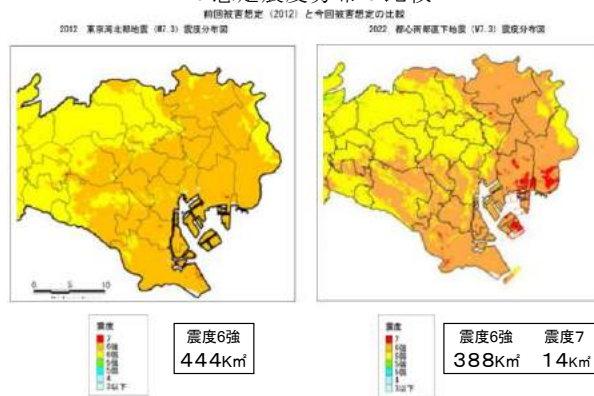


図1 2012年と2022年の想定震度の比較

2. 被害想定は何を想定してきたか

従来の地震に関する被害想定とは、100年前の関東大震災でも起きた、揺れて家屋が倒壊し、火災が発生して家屋が焼失し、それらに巻き込まれて人が犠牲になるなど、いわゆる「古典的被害」を、被害発生メカニズムを工学的に回帰した推計式を導出して、その変数に現状データを投入して、物的被害を定量的に想定してきた。

3. 何が変わって被害想定されたのか

2022年に公表した東京都の首都直下地震の被害想定では、東日本大震災直後の2012年に公表した被害想定に比べ定量的被害は大きく減った。それは、12年と22年とで地震モデルが変わったこと、この10年間で市街地の建物が大きく建て替えられたこと、による。

表1 2010ー2020年東京都の建物の変動

	2010		2020		増減棟数
	建物棟数	構成比	建物棟数	構成比	
市街地	旧築年	234,211 11.70%	161,228 8.18%		-72,983
	中築年	731,373 36.50%	531,638 26.90%		-199,735
	新築年(1981-00)		614,279 31.15%		+239,380
	新築年(2001以降)	1,039,998 51.90%	664,899 33.77%		
	合計	2,005,582 100.00%	1,972,044 100.00%		-33,538
郊外	旧築年	59,566 7.30%	53,739 6.45%		-5,827
	中築年	139,278 17.10%	124,193 14.92%		-15,085
	新築年	614,937 75.60%	654,605 78.63%		+39,668
	合計	813,781 100.00%	832,538 100.00%		+18,757
総計	2,819,363	-	2,804,582	-	-14,781

原資料：建物倒壊に関する被害想定基礎データ(固定資産税台帳ベース)

※ 固定資産税台帳の基準日(※4、H22/1/1時点)

※ 旧/中/新の各築年区分は次のとおり。

木造：～63/～63～64/～65～66/～67～68/～69～70/～71～72/～73～74/～75～76/～77～78/～79～80/～81～82/～83～84/～85～86/～87～88/～89～90/～91～92/～93～94/～95～96/～97～98/～99～00/01以降

非木造：S45年以前/S46～S55/S56以降

旧耐震木造 27万棟減 24万棟増：耐震化率13%UP
旧耐震非木造2万棟減 4万棟増：耐震化率 3%UP
全建物では 29万棟減して28万棟増：耐震化率12.96%

4. 安全になったが安心できるのか

しかし、それで本当に東京は地震に強い都市になったのか。重要なのは、東京のリスクは古典的な物的被害ではなく、定量的被害の背後に潜んで

いるのではないかということである。それを見逃がさず本当の「東京のリスクを見える化する」ことが、首都直下地震の対策や備えについては重要なのではないか。

5. 二つの「見える化」

被害の見える化には、被害の「映像化」と被災状況を認識させる「シナリオ化」がある。

- (1) 視覚的見える化……定量的被害の“映像化”

 - ・CG技術を活用しての見える化
 - ・洪水ハザードマップの浸水市街地の見える化
 - ・炎高20mの地震火災(炎の津波)見える化

(2) 認識的見える化……“シナリオ化”

 - ・エレベーター停止・停電・断水のタワーマンションでの在宅避難生活とは？
 - ・首都圏がブラックアウト(全域長期停電)すると？
 - ・帰宅困難で父が帰ってこない郊外住宅地では？

●DXは、映像化とともに、シナリオ化にも有効な技術革新になるのではないかと！

図2 二つの「見える化」のコンセプト

(1) 「映像化」による見える化とは

地震被害の見える化という、映像化がイメージされる。DX技術の進化で、映像化技術の飛躍的に進歩するであろう。建物が倒壊し、地震後の火災で建物が燃える状況の映像化もリアルなものとなろう。しかし未体験の、市街地火災が高さ20メートルもの炎の壁となって迫ってくる“炎の津波”の脅威を、CG映像でどれだけ伝えられるだろうか。あるいは断水率50%の被災地が人々にどのような被災状況として見えているのだろうか。その脅威や被災がもたらす悲惨情景とは何か。

(2) 「シナリオ化」による見える化とは

そのような悲惨情景を、文章で物語化する「シナリオ化」で読むことで、自分の頭の中で認識され、その脅威をイメージする方が、その脅威を自分事として“見える”ことになっているのではないかと。定量的被害で数量が示されても、自宅が倒壊した被災者はどのような状況に追い込まれるのかを自分事とし見える化されないであろう。

その課題への取り組みが、今回取り組んだシナ

リオ化(定性的被害想定)で目指したものである。定量的に想定した停電率には含まれていない首都圏のブラックアウト(全域長期停電)では、どのような状況と影響ももたらすのか。これは、実際に北海道胆振東部地震で起きた北海道全域停電だが、都民でどれだけ首都圏全域停電の事態を想定できるだろうか。

6. 被害想定を「見える化」する可能性と課題

地震が起き、建物倒壊や市街地焼失が発生し、自分はどういう状況に追い込まれるのかを“見える化”して、自分事化していく、この“シナリオ被災想定”が極めて重要だと考えてきた。“見える化”はDX等の通信や映像化だけではなく、シナリオによる“見える化”も非常に有効な技術なのである。自分の災害リスクを見える化できると、いろいろな取り組みも自分事として認識でき、防災を実践することにつながるはずである。

従来の定量的被害想定は、行政の地域防災計画など、公助の災害対策の必要量を算出する前提とはなってきたが、〇〇棟倒壊、〇〇等焼失という数字を示しても都民にとっては他人事で、全都民が評論家となり批判、批評は出るものの、自分事として災害を捉え、防災に一人一人が取り組む動機付けになって来なかったのではないかと。そこで、今回、取り入れたシナリオ型の定性的被害想定は、定量的被害想定は何を意味するのか、それが引き起こす事態を自分事として認識するために、市民目線の被災状況を読み取るツールとしても使えるものを目指した。

今回のシンポジウムによって、一人ひとりが自分の被害を減らす自助、その余力が隣人を助ける共助、それらの自助と共助によってコミュニティの緊急事態に備えるには、被害想定以外の“東京の新しい災害リスクの見える化”が非常に重要であることを感じ取っていただければ幸いである。

中林一樹(なかばやし いつき)

平成16年防災功労者(内閣総理大臣表彰)。東京都の被害想定、地域危険度、事前復興等を指導。

＜シンポジウムの概要＞

【Ⅰ部 基調講演】

榊 真一 内閣府政策統括官

「激甚化する災害への対応」

原田智総 東京都 危機管理監

「新しい東京の被害想定と一人一人が利活用するための“見える化”」

加藤孝明 東京大学教授

「被害想定から「災害状況像」の想定へ～自分の防災課題の可視化～」

平田京子 日本女子大学教授

「日常生活をすばやく取り戻すための自分と家族の強化－被害想定からデータを読み解く－」

【Ⅱ部 全体討論】

司 会：中林一樹

パネラー：芝崎晴彦 東京都 防災計画担当部長

平田京子 日本女子大学教授

中尾 毅 日本危機管理防災学会

司会： 東京都の新しい被害想定では、定量的な従来の被害想定に加えて、それらの被害が創り出す被災状況や東京に潜む「新しい災害リスク」に、49の項目について、都民の生活に対するリスクであるとの観点から、認識的見える化として「シナリオ被害想定」に取り組んだ。それによって、都民に、さらに企業や自治体にも、首都直下地震による「各々が影響を受ける被災状況を自分事として捉えて」もらい、被害軽減や備えを寸心するためである。その可能性と課題について討論する。

最初に、「二つの見える化で、都民や企業に首都直下地震のリスクを理解してもらえたか」です。

●都民に東京のシルクを理解されたかは、公表から間のないので不明であるが、なんとなく、安心感が漂っているような雰囲気は感じる。被害規模が2/3になったとはいえ、都心南部地震での住家の全壊と焼失で20万棟というのは、全く少ない被害規模ではない。阪神・淡路大震災の11万棟、東日本大震災の12万棟に比べると、約2倍

の規模であり、未曾有の大規模震災である。

●しかも、高齢社会の進展で、東京も高齢者が増えるとともに、コミュニティの希薄化も進み、被害の軽減とは逆に社会の脆弱性は上がっていることを踏まえ、「安全にはなったが、安心できない巨大都市」との認識で取り組む必要がある。

司会： 都内各地で住民の方と防災の取り組みの中で、今回の被害想定は、都民の皆さまには、どのように受け止められているのかが気になるところです。都民にとって、被害想定は見えやすくなっていたか。一方、都心南部地震で、定量的な被害が1/3も軽減したことが、地震防災の重要性を緩めてしまっていないかと危惧もしている。

●やはり、なんとなく緩んでいるのではないか。マスコミの取り上げ方も少ない。しかし、全ての地域で被害下顕現したわけではない。多摩地域では前回よりも定量的被害が増えた地域もある。

●マンションなどはもともと被害が少なく、さらに被害が減っているのに、逆に「地震後には避難所に行く」と考えている人は減ってはいない。シナリオ想定によって、一人一人の被災後の状況を自分で考え、課題により組むことが必要である。

司会： 災害対応のもっとも身近な行政である区市町村にとっても、定量的に被害想定した建物被害や人的被害の大幅な軽減が、区市町村や隣接県に、どのように受け止められているのか。

●東京都では、新しい被害想定を受けて、今年度中に現在の直下地震対策を見直すための12の部会をテーマごとに設定し、検討を始めた。それらを受けて、都も、区市町村も地域防災計画の見直しに取り組む予定となっている。その中で、シナリオ想定のように、想定外に潜んでいる「災害のリスク化」に対する取り組みも検討中である。

●建物被害の軽減によって、避難所避難者が減少しているが、それは在宅避難者が増えたことに他ならないので、従来の避難所対策で充分のではなく、ライフライン被害などを踏まえて、在宅避難者への多様な支援を重要になっているはず。避

難所避難者への支援を想定する「避難所運営マニュアル」から、地域で必要としている避難生活者への運営を考えていく必要があるのではないかと。小中学校は、「避難所」から「避難生活地域運営センター（仮）」として位置付けていくべきである。

司会：地震のみならず、東京でも風水害に被災する区市町村が増えている。防災 DX として、水害の見える化技術が大きく進展し、都民には水害の脅威がリアルに伝わる状況にあるが、区市町村などの自治体の、新たな災害対応はいかがでしょうか。

●自治体には、地震とともに風水害の対応も重要になっている。コンサルタンツのような専門機能との連携は重要となっている。

●自治体と、避難情報の発出にともなう状況の見える化を DX 化し、判断等を支援するような取り組みは少しだが事例がでてきている。

司会：「防災 DX による災害の「視覚的見える化（映像化）」や、シナリオ想定のような人間の想像力で描き出す「未知の災害リスクを認識する」、「未経験の災害リスクを認識する」という「認識的見える化（シナリオ化）」によって、高齢社会となっていく東京の地域防災力を高められないか。つまり、「視覚的な見える化」と「認識できない見える化」で、新たなリスクコミュニケーションを展開し、地域での「地域防災力の向上」を展開行っていくことが期待できる。

●都心南部地震の悲哀は減ったが、棚東部地震の被害は実は増えている。しかも、杉並・練馬・中の・豊島・板橋の5区では、都心南部地震の被害よりも多摩東部地震の被害の方が、規模が大きいのである。被害想定は、特定の地震を想定するので、震央から遠い地域の被害は軽減するが、首都直下地震はどこで発生するか、誰もわからない。被害想定が軽減したからと安心するのは極めて危険である。

●避難所の運営も、被災地での経験と知恵を見える化するような、「対策の見える化」も重要である。

●確かに洪水はもともとハザードマップで新水

深が分かるし、自宅の位置での被害が見えやすい災害である。しかし、それと避難するかとは別ではないか。避難のスイッチを押すための「見える化」が重要で、専門機能との連携も必要である。

●東京都では、被害想定で取り組んだ「被害の見える化」「震災リスクの見える化」を都民や企業に利活用してもらうために、その活用法ツールの開発に取り組もうとしている。

●イメージとしては、洪水に対する避難計画を自分でつくる「マイタイムライン」を東京都は策定し普及してきたが、同じように「マイ震災対策プラン（仮称）」の策定に繋がれるとよい。

まとめ：定量的被害想定は「行政目線」の被害想定で、決して地域防災計画の対応業務量が大幅に減ってはいない、未曾有の状況であることを、区市町村には、認識してほしい。

「シナリオ想定」とは、は「市民目線」での被害想定を目指している。それにより、被害の程度や状況を「見える化」することで、都民や企業には、自分が被災していなくても、厳しい状況に見舞われるのだ、ということを、一人一人が自分事として認識してほしい。災害対応とは、高齢社会では、「地域の総力戦」で、地域の一人一人の自助が無くては、地域の共助は成立しない。一人一人ができる自助に取り組むために、是非とも「シナリオ被害想定」の活用の推進が重要であろう。

一人一人の自助の取り組みが、何百万というもう代な被害を軽減するのです。一人一人の自助なくしては、被害は減らないからである。

災害リスクの見える化とは、都民にも、企業にも、「市民目線の防災」を促進するための有力な方法だということが確認できた。おそらく、どの区市町村も、被害が減って安全には向かったが、地震がどこで発生するかで被害は全く異なるし、自宅が被災しなくても安心できないことが起きる。そんな状況を、「シナリオ被害想定」からも読み取り、備えてほしい。

（シンポジウム概要の文責：中林一樹）

クイズ「穴あき和歌・俳句」で考える古代からの地震・津波

藤村望洋

俳句「ARC セッション」主宰／NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長



1. 「日本書紀」の地震

東日本大震災によって、千年前の巨大地震「貞観地震」がクローズアップされました。千年前の地震や津波は、古文書の中でどのように取り上げられ、どのように和歌で詠まれていたのかを考えてみましょう。

日本での地震の一番古い記録は「日本書紀」。
允恭 5 年 7 月 14 日（西暦 416 年 8 月 23 日）
「五年の秋七月の丙子の朔己丑に地震る」と出てきます。文字以前の大和言葉で「地（大地）」は「ナキ」、「ふる」は動くを意味し、地震は「なみふる」と呼ばれていました。歌として最初に伝わっているのは、武烈天皇（在位 498～506 年）の皇太子の時のもので、

「臣の子の八節の柴垣下動み

〇〇が震り来ば破れむ柴垣」

ここでクイズ。〇〇に 2 音（漢字 1 字）を入れましょう。歌の意味は「大臣の子の家の編目の多い立派な柴垣、それは、見かけは立派だが、地下が鳴動して地震が来たら、すぐに壊れるような柴垣だ」と皇太子が恋敵の大臣の息子に投げつけた歌で、地震そのものを詠んではいません。（正解は、「地」（なみ）です）。

2. 「万葉集」の地震・津波

万葉集は全 20 巻、4516 首の歌が集められています。この時代は推古地震、白鳳地震、天平地震など多くの地震に見舞われていますが、不思議なことに地震や津波の歌は 1 首も載っていません。編集方針として採用しなかったという事はないとの研究者の言葉です。地震の毎に元号を変えて祈るだけ？このある種のタブー視が、現代にまで続く「我がこととして捉えない」姿勢を生んでいるのかもしれません。研究の余地があります。

3. 「後拾遺和歌集」の地震・津波

ここに百人一首にも選ばれた地震津波の代表

の和歌が登場します。〇の 7 音の地名がクイズ。

「契りきな かたみに袖をしぼりつつ

〇〇〇〇〇〇〇 波こさじとは」

864 年貞観地震による大津波で仙台平野はほぼ冠水しましたが、国府の多賀城にある宝国寺の裏山「末の松山」には届かなかったとのこと。千年後の東日本大震災でも周辺の市街地（多賀城市八幡）は 2 m も浸水。末の松山に避難した人は無事でした。末の松山は、「決して波が越えることがない地」として好んで歌に詠まれる歌枕となりました。

4. 正岡子規の地震

子規の生きた明治時代も多く地震があり、子規は多くの地震俳句を残しています。

〇〇さへまじりて二百十日哉/子規

（クイズ。〇〇に 3 音漢字 2 字を入れてください）

年の夜や地震より出すあすの春/子規

地震して温泉涸れし町の夜寒哉/子規

地震して恋猫屋根をころげけり/子規

やぶ入の興さましたる地震かな/子規

地震して昼寝さめたり蒸暑き/子規

地震して障子あくれば春の雨/子規

（〇〇の答は「地震」）。子規の他にも

地震来て冬眠の〇より覚ます/西東三鬼（森）

鯨鯨の〇〇の地震見たる貌/八牧美喜子（海底）

永き夜の□□のときは見つめ合う/池田澄子

大地震や◎◎◎罪に春の雪/灰色の猫

（□□は「地震」。◎◎◎は「忘るる」）。

藤村望洋（ふじむら ぼうよう） 阪神淡路大震災の語り部。早稲田商店街と共に「リサイクルと防災のまちづくり」を推進。「ぼうさい朝市ネットワーク」の全国の商店街と共に東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた南三陸に「福興市」を立ち上げて支援。「みらくる TV」の俳句番組「一句多会」と「災害ユートピア」を担当。

障害って何？、障害者って誰？

浅野史郎

元厚生省障害福祉課長・元宮城県知事・(株) 土屋総研特別研究員



障害者問題に関わっていると、心に響く言葉に出会うことがあります。2021年3月20日にみらくるTVにゲスト出演した海老原宏美さんは、私の心に響くたくさんの言葉を残してくれました。

海老原さんは、脊髄性筋萎縮症Ⅱ型という障害をもって生まれました。全身性の障害であり、呼吸のための筋肉が弱いので人工呼吸器を使っています。その海老原さんが言います。「私の場合、障害は乗り越えるものではなく、共にあるものです」。さらに続けます。「『乗り越える』というと、障害が『乗り越えなければいけない不幸』のように感じられます。それは、私の気持ちとはちがいます」。

私たちは、重い障害を持った人ががんばっているところを見ると、「障害を乗り越えてがんばっている。えらいね」などと言いがちです。海老原さんに叱られそうです。彼女の言葉は、がんばり過ぎてつらくなっている障害当事者に向けたものかもしれません。その海老原さんは、講演先の札幌で2021年12月24日に亡くなりました。44歳でした。

盲ろう者の東大教授、福島智さんからたくさんの心に残る言葉をいただきました。慶應大学SFC、神奈川大学のゼミに計3回来ていただきましたので、学生の心にも響く言葉を残していきましました。

その福島さんの生い立ちを描いた映画「桜色の風が咲く」を観ました。その中で福島さんが言う力強い言葉。「僕がこういう状態になったのは、こういう僕じゃないとできないことがあるからちやうやろか。僕が生きる上での使命があるなら、それを果たさなければならない」。盲ろうという大変な障害を乗り越えるのではなく、そのまま受け入れることによって、自分が果たすべき使命があることに気が付くのです。

首都防災ウィーク実行委員である柿島光晴さんは、視覚障害者です。いろいろなことをやって

いる柿島さんですが、中でも囲碁が活動の中心で日本視覚障害者囲碁協会の代表理事として。視覚障害者への囲碁の普及、指導をしています。視覚障害者用の特殊碁盤アイゴを改良して復活させました。囲碁の腕前も大したもの、アマ四段とか。

こういう活躍をしている柿島さんを見て、「視覚障害を乗り越えてがんばっているなあ」と感心する人は、私の周りにはいません。

全盲のバイオリニスト白井崇陽さん、全盲の和太鼓奏者片岡亮太さん、全盲のシンガーソングライター大石亜矢子さん、聴覚障害で創作ソロ手話唄を操る竹DSさん、いずれもみらくるTVに出演しています。この方たちのパフォーマンスを見て感動しますが、それは「障害があるにもかかわらず、その障害を乗り越えてがんばっている、感動した!」といったたぐいのものではありません。

原香織さんの長女未来美さんはダウン症。みくみさんは独自のダンスを楽しそうに踊ります。誰にも真似できません。そして、誰もが感動します。ダウン症を克服して踊っているから感動するものではありません。楽しく踊っているのが伝わってくるので感動するのでしょう。

こういった人たちと親しく接すれば、障害者の見方が変わるでしょう。障害があつてかわいそうという発想から解き放たれることでしょう。「障害を乗り越えるためにがんばっている、えらいな」という見方も変わってくる。障害者を過小評価する、過大評価するのではなく、あるがままに正しく理解する。「障がいと囲碁、そして防災」に関わるイベントは、そのためのものであると信じています。

仙台市出身の74歳。厚生省で障害福祉課長を務める。1993年宮城県知事、3期12年務める。知事退任後、慶應大学SFC、神奈川大学で教授を務める。現在は、(株)土屋の土屋総研特別研究員

防災鼎談「首都を襲う巨大水害—どう生き延びるか—」

<趣旨説明>

中林一樹

首都防災ウィーク実行委員会代表・東京都立大学名誉教授



1. はじめに

現在の荒川は、明治43年（1885年）8月10日ころに大雨で荒川（下流が隅田川）が氾濫して発生した東京大水害がきっかけで、大正2年（1913年）～昭和5年（1930年）に完成した、荒川放水路である。それ以来、東京の下町では大水害は発生していない。しかし、令和元年（2019）年の19号台風では、千曲川や阿武隈川が大水害となり、荒川でも経験のないほど水位が上がる緊急事態だった。荒川下流を放水路に分流した「岩淵の水門」では、危険が水位に上がった。

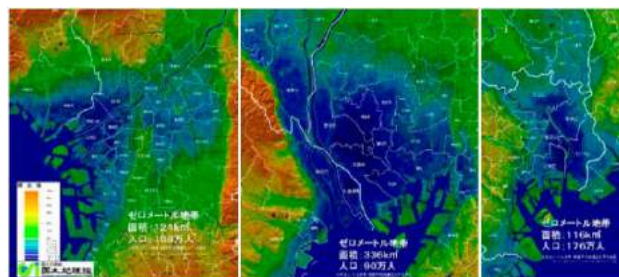
明治大水害は、隅田川の両岸の下町を水没させ、4カ月近くも泥水が引かなかったと言われる。当時は、工業化の前で地下水汲み上げをしていなかったのも、ゼロメートル地帯はなかった。荒川放水路の開削工事中に関東大震災が発生し、放水路の完成は、東京の帝都復興事業が完了と同時の昭和5年であった。従って、ゼロメートル地帯は、大洪水を一度も受けていない。

しかし、地球温暖化の影響で、降水量が増え続けている21世紀には、20世紀には置き得なかった事態が起きる可能性を忘れてはいけない。

2. 首都圏のゼロメートル地帯

島国である日本の大都市のほとんどは、大河川の河口付近に立地している。それは、古来から河川による内陸からの物流、海路による物流の結節点という物資輸送の要所であったからである。その大都市に明治期に工業が導入され、大正期に産業革命を迎えて重工業化を迎え、昭和以降地下水の汲み上げが活発化して地盤の沈下が始まった。とくに、戦後の高度経済成長期になると、汲み上げ水量が激増し、それに伴い地盤沈下も激化して

いった。同時に大気汚染など工業化による環境悪化から、1956年工業用水法による地下水くみ上げの規制、1959年首都圏工業等規制法、1964年近畿圏工業等規制法によって、地下水汲み上げ規制が強化されて、地盤沈下が止まった。この半世紀の間に、大都市の沖積低地では隣接の湾内平均海面よりも地盤高が低い「ゼロメートル地帯」が出現した。面積では伊勢湾台風で高潮により水没した名古屋圏が330km²で最大、人口では首都圏の176万人が最大である。



大都市圏	大阪	名古屋	東京
面積	124km ²	336km ²	115km ²
居住人口	138万人	90万人	176万人

図1 三大都市圏のゼロメートル地帯

3. 荒川の氾濫と首都水没

・入間川流域の洪水浸水想定(浸水深)



図2 入間川水系(荒川)の洪水浸水想定(浸水深)

首都圏では、明治大水害の後に首都東京の水害防止のために建設に着手した荒川放水路（現荒川）の西側に地盤高の低い地域が広がる。（図 1）その荒川が越流・破堤すると、千年確率の大水害で浸水深が 5m 以上の地域が広がり、湛水継続時間は 2 週間以上と想定されている。（図 2、図 3）

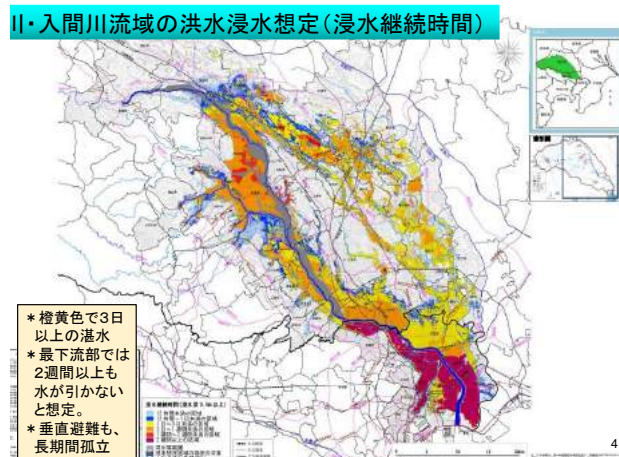


図 3 入間川水系（荒川）洪水想定（浸水継続時間）

4. 洪水から命を守る避難行動と避難情報

風水害は、基本的に気象情報・河川情報が発出され、それらに基づく「避難情報」が事前に自治体から発出される。浸水前なので、予想される左右兩岸のエリアに広く避難情報が発出され、事前避難を養成・指示される。（図 4）

多様な災害関連情報の「警戒レベル」に対応する「避難情報」の改定(2021)					
気象情報	氾濫情報	避難情報	警戒レベル	住民行動	危険度
大雨・土砂災害 特別警戒 (記録的な大雨)	河川氾濫 発生情報	緊急安全確保	5	命を守る最善の行動 (垂直避難)	高い
土砂災害 警戒情報	河川氾濫 危険情報	避難指示	4	危険な場所から 全員避難	↑
大雨・洪水 警戒	氾濫警戒情報 洪水警戒	高齢者等避難	3	高齢者など要支援者 避難開始	
大雨・洪水 注意	河川氾濫 注意情報	-	2	ハザードマップ・避難 先・避難方法の確認	
台風・豪雨予報 (早期注意情報)	-	-	1	最新予報で気象確認 ・避難準備のチェック	低い

図 4 災害情報に応じた避難情報の体系

水害による直接死から命をまもる事前の緊急避難の体系が、図 5 である。その時に避難する場所が、命を守る「避難場所」であるが、降雨時の避難となることが多く、非水害地域の（地震時を想定した）避難所が、水害時の避難場所となるこ

とが多い。一方、コロナ禍の中で、“避難所避難”のみならず“在宅避難”や“縁故避難”などを含む「分散避難」に取り組まれている。事前避難は人数が多くなるので、非浸水地域の市民や事業所は、事前避難時の「縁故避難先」として受け入れを積極的に引き受けることも重要なのである。

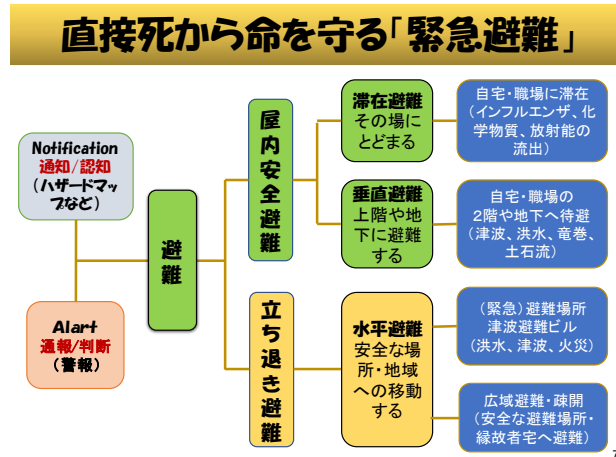


図 5 水害時の事前避難の体系

5. 東日本台風時の阿武隈川の氾濫状況

東日本台風は、首都圏に上陸し、信越から東北を縦断して千曲川と阿武隈川で大規模水害を引き起こした。阿武隈川（郡山）の時間降雨と水位上昇、避難情報の発出を時間軸で示した図 5 から、早期避難と夜間発災対応の困難さが伺える。

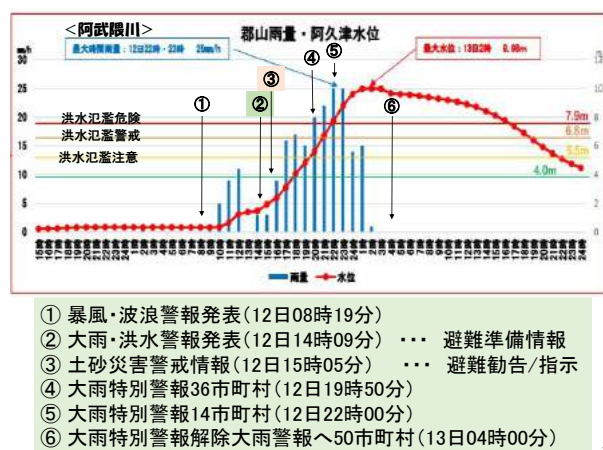


図 6 阿武隈川水害の時間降水と避難情報

6. おわりに

台風 19 号では、深夜に水害が発生し、事前避難者も多くはなかった、荒川破堤ではどうなるか。事前の縁故避難の実施が鍵となろう。

＜「防災鼎談：未災の居住者と語ろう」の概要＞

聞き手：中林一樹(首都防災ウィーク実行委員会代表)

話し手：中瀬勝義(江東5区・地域防災を考える会)

話し手：瀧澤一郎(首都防災ウィーク実行委員会監事)

今日は、大水害が懸念されてる葛飾区と江東区にお住まいの中瀬さん、瀧澤さんとともに、この「未災の大水害」にどう対峙し、生き延びていくか、につて、私が話の回し手、お二人が話し手となって、話しあう“鼎談”を企画しました。

●聞き手： 荒川を挟んで、荒川の右岸と左岸に生まれお住まいのお二人から首都水没ともいわれる大水害について、話し合いたいと思います。

◆話し手： 台風19号の時、左岸側の葛飾区では避難情報が発出されました。荒川沿いよりも中川・綾瀬川沿いでの避難情報でしたが、この川には埼玉県に巨大な地下貯留ダムが整備されて水位が上がると雨水を溜め、ポンプアップして江戸川に放水する「首都間外郭放送路」が整備されており、川の水位も大きく上がってはいなかったと記憶しています。しかし、隣接自治体の状況や、隣接県のそのような施設の運用状況が十分に伝えられないのか、地元自治体からは「避難、避難」と情報が出されていました。

河川管理者と、流域の都県・市区の連携がないまま、気象警報に従って避難情報を出すことになるのは、居住者からみれば、状況とズレているのではないかと感じてしまう。

●聞き手： 荒川の右岸も左岸もゼロメートル地帯で、水害のリスクが高い浸水想定区域です。一方、首都水没ともいわれる大水害とともに、30年以内に70%の確率で首都直下地震がどこかで起きるとされています。この洪水想定区域とは、その地盤は過去の水害で砂と泥が運ばれて積み重なって形成された沖積層と言われる軟弱地盤です。それは、地震時には揺れやすく、液状化も発生しやすい、地震リスクの高い地域でもあるのですが、お二人が住み続けておられるのはなぜですか。大変失礼な聞き方なのですが、いかがでしょうか。

◆話し手： それは、なんといっても、私の故郷ですからね。東京の下町であるここで育ってきたし、ここから離れるということは考えられません。

確かに水害が想定されているし、地震でも被害が出やすいところだと知ってますが、何処かへ引越すという選択肢は考えたことはありません。

◆話し手： 私もここで生まれ、育って、家業を継いで、ここ以外での生活など考えたこともないですね。地域には幼馴染も、友人も、知り合いも多いし、お祭りや町内会にも関わってきましたし、いろいろ地域の役も引き受けてきました。

また家業もこの地域の豊富な水を使って地域でやってきたものですし、ここを離れての生活はイメージできませんね。

●聞き手： お二人とも、ここを離れることなど考えたこともないということで、私は5人兄弟の末子で、故郷を後に出てきてしまったのですが、ものすごく強い“故郷愛”を受け止めました。

であれば、水害や、地震と共生するのですが、お二人のお住いや仕事の場合は、荒川氾濫ではどんな被害が想定されているのですか。その時のために、どんな取り組みをされていますか。

◆話し手： 私の家は3階建てで、浸水深5メートルを踏まえると2階は水没しても3階は残ると思っています。大事なものは1階ではなく3階などに置くようにしています。また、屋上には、プランターでの家庭菜園をずーとやっていて、いろんな野菜を栽培しています。逃げ遅れて「安全確保」で3階がダメでも屋上がある。野菜も何かしらある。また非常持ち出しも、地震時のために1階と水害時のために3階にと考えてはいます。

地震対策では、家具の固定には取り組んでいます。

●聞き手： 家具の固定は、地震だけでなく、水害時にも意味があるんです。水害時には、冷蔵庫や箆箆とか、気密性のある家具や什器は“浮く”んですね。浮いて流されてから倒れる。そうした家具の移動を防ぎ、箆箆等のテントを防ぐと、上段のものは浸水しないで助かるのです。

◆話し手： 私は浸水深5メートル以上なので、住まいを4階建の3、4階上にしています、とい

うのが私の感覚で、いわば籠城対策です。

そのため、備蓄にも取り組んでいます。また、地震対策も兼ねて、停電対策として発電機も購入しています。1, 2階よりもよく揺れそうなので、家具の固定にも取り組んでいます。

●聞き手： 昔と違って、気象衛星の情報解析から、三日前、4 日前に巨大台風が発生し、首都圏に向かっていると伝えられる。そして「江東5区の皆さん、早めに安全な高台や首都圏外に避難しなさい」と政府が勧告する。このような時にどうされますか。これが「マイタイムライン」ですね。

◆話し手： 地域自治会やその他さまざまな組織の世話役もやっており、地域に助け合える人がたくさんいる。もちろん、助けてあげることですが、助けてもらえることもある。自宅での自助のみならず、地域での共助も大切にしたいので、水害時に早々と遠くへ避難するわけにもいかない。

◆話し手： 私も孤立すると思いますが、自宅に留まるのではないかな。屋上避難も憂されます。

●聞き手： 2021年の災害対策基本法が改定され、“巨大災害の恐れが確実視された”「恐れ段階」で、政府は「非常災害対策本部」を設置できるようになりました。地震は突発的に発生するのでダメですが、風水害では事前に対策本部を立ち上げ、政府は「上陸予定の3日後は、首都圏は全域臨時休業日とする。学校も、企業も災害対応に万全を期すように」と発表する。そんな措置が出たら、サラリーマンや企業はどうすると思いますか。

◆話し手： 東京経済機能を止めることになるので混乱もあると思いますが、事前に通知されることは、混乱を回避し、避難も容易に思うと思う。

◆話し手： 国が責任をもって世界に発信することは、巨大災害に立ち向かうには不可欠ではないかと思いますね。

●まとめ： お二人のお話を聞きながら、神奈川の台地の上に住んでいる中林が感じたことをお話しして、防災鼎談の「締め」にしたいと思います。

第一は、二つの「しんすい」が、巨大水害に対してしながら生き延びて、また復興してここに住み

続けることを可能にする源である、ということ。二つの「しんすい」とは、ふるさとの荒川の水に親しむ「親水」と、荒川が暴れて引き起こす「浸水」です。平時の優しい荒川と慣れ親しんでこそ、荒れ狂う荒川の怖さが分かる。だから、その時は、さっさと避難する。安全な対策を実施することができるのではないか、ということです。

第二は、そのためには、「地の理」、「天の理」、「人の理」を会得することが大事である、ということです。この「り」は、理屈の「理」、理論の「理」です。利益の「利」、便利の「利」ではないと思います。「ことわり」の理ですね。

①地の理： 住んでいる地域をよく知っておくということです。この地域にはどんなリスクがあるのか。でも、どんな素晴らしい地域であるのか。どこに災害時に役に立つ防災資源があるのか、地域を知り尽くしておくことが「地の理」です。

②天の理： そして、災害の情報、とくに台風や豪雨のような気象災害は、事前に多様な災害情報が出され、それに基づいて避難情報も発出されます。その正しい理解と認識が、生き延びる行動を可能とする。それが「天の理」です。

③人の理： さらに、一人ひとり我先にではなく、災害時こそみんなで助け合って、誰一人も取り残さない人のネットワークを作っておくこと。それが、イザという時に避難先として引き受けてくれるところがたくさんあるということにもなるのですが、それが「人の理」です。

この三つの理、「地の理」、「天の理」「人の理」が、水害だけでなく、地震災害にも、だれ一人取り残すことなく、みんなで生き延びる「カギ」、まさに「ことわり」ではないかと、語り合いながら思いました。

中瀬さん、瀧澤さん、ありがとうございました。最後までお付き合いいただいた皆さん、三つの「理」を磨いて、全員が首都の未曾有の巨大災害ー首都水没の巨大水害と首都直下地震ーを生き抜くように、がんばりましょう。

(文責 中林一樹)

首都を襲う巨大水害を どう生き延びるか

中瀬勝義

江東5区マイナス地域防災を考える会/江東区在住



1. 趣旨説明：中林一樹(首都防災 W 実行委員長)

今の荒川は、明治43年(1885年)8月10日の大雨で荒川下流が氾濫した**東京大水害**がきっかけで、大正2年～昭和5年に建設された放水路で、それ以来大水害は発生していない。東京大水害は、墨田川両岸の下町を水没させ、**4カ月近くも泥水**が引かなかった。当時は、工業化の前で、地下水の汲み上げをしていなかったの**で、ゼロメートル・マイナス地域はなかった**。しかし、**地球温暖化**の影響で、降水量が増え続け、「**首都水没**」が懸念されている。

2. 映像で見る荒川氾濫：国土交通省荒川下流河川事務所作成の「荒川氾濫」

国が作成したフィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」を参加者みんなで観た。**温暖化**が進み、**豪雨**が増し、荒川が北区の岩淵付近で水位を高め、**JR 傍の堤防が決壊**した。その洪水は南下し、町屋駅の**地下鉄内にも浸水**、地下鉄路線を通じて、霞が関まで浸水し、**都市機能が崩壊**した。東京に未曾有の被害をもたらした。

決壊は、堤防の**越水決壊**だけではなく、堤防に浸水する**浸透決壊**も想定され、堤防は安全ではない可能性を知らせている。



3. 「ゼロメートル地域に注目——東京大水害に備える」中瀬勝義(江東5区地域防災を考える会)

江東5区広域避難推進協議会のハザードマップには、「ここにいてはダメです」と記され、危険を示している。



2019 年台風 19 号時、荒川水位が高く、**隅田川は決壊寸前**で、**危機**状態にあった。さらに首都直下型地震襲来は30年で**70%**と高く、荒川の**堤防破損による浸水危機**が危惧され、1階と地下1階にあるスーパーとコンビニに依存した江東5区住民の**食生活崩壊**が強く懸念される。その危機的状況を回避するために、国、都、江東5区、大学、研究所、ゼネコン、NPO等の住民の協力による「江東5区マイナス地域防災研究所」を創設し、一人ひとりが**自分事**として、その**危険性を理解**し、一人ひとりが**個別避難計画**を作ることを期待したい。そのための市民の「北砂アカデミア防災塾」立上を始めている。

3. 「未災の居住者と語ろう：巨大地震にどう対峙して生き延びるか」

パネラー：中林一樹、中瀬勝義、瀧澤一郎
(首都防災ウィーク実行委員会/葛飾区在住)

- 江東区も葛飾区も水害のリスクが高いのに、**住み続けているのはなぜですか？**
 - ・生まれ育ったところで転居しづらい。
 - ・代々住み、仕事も順調、転居したくない。
 - 周囲のお住まいでは、荒川氾濫の予想される被害はどう考えていますか？
 - ・100年洪水がなく、国や行政が何とかしてくれると考え、**危機意識が薄い**。3階建てなので、**垂直避難**で何とかできるのではないかと。
 - ・8年前に書かれた**土屋信行『首都水没』**にはその危険性が詳しく書かれ、やっと理解してくれたかと言わんばかりとなっている。
 - 荒川をどう認識していますか？
 - ・東京大空襲時に荒川に助けられ「**命の恩人**」。
- 所感：**気候危機が叫ばれていることを十分認識し、SDGs「**誰一人取り残さない**」を心に、一人ひとりが**自分事**としてリスクを理解し、自分の**個別避難計画**を作れたらと思う。

福祉施設防災 防災訓練パワーアップTVで参加

高橋 洋

一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 副理事長



1. 福祉防災を学ぶ（講話）

一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会（以下「福防協」という）は、2016年に結成。元々防災の取り組みが進んでいなかった福祉分野で、災害対応を進めるとともに、魅力ある福祉施設の創設を展望して活動してきました。これまで参加している個人個人が関わってきましたが、今回初めて団体としてご一緒させていただきました。表題にある「福祉施設防災」については、福祉サービスの事業継続を中心に、災害などの危機対応全般に対する学びという事で、常日頃から提供している「防災危機管理の基礎」である「自分を守る」から始まって、「何かあっても福祉サービスを止めないように、仮に止まってもできるだけ早期に再立ち上げができるように」と言う観点。そのうえで福祉BCP策定とその後の訓練などによる確認と改善、さらには多くは福祉施設が担う福祉避難所の開設・運営の円滑化までの講話を行いました。



2. 福祉防災模擬訓練（会場とオンライン）

後半は、福祉防災計画（BCP）による初動対応を、会場出席者とオンライン出席者を結んで、模擬訓練しました。災害発生後の初動期に、施設責任者や防災担当職員がいるとは限りません。居合わせた施設職員が、福祉防災計画に基づいて作られた「指示書」（初動期の切札）を手にして、各種対応を実施する手順を確認、各種情報連絡、行政の福祉部署との連携訓練などを行いました。これを参考に、福祉分野・施設での災害危機管理対応をパワーアップしていただけると確信しています。



高橋洋（たかはし ひろし）

練馬区で防災担当（9年）、介護保険課、高齢社会対策課などに従事。区役所退職後現職：防災講師・防災コンサルタント、団体・NPO副代表他

【第1回 誰でも囲碁大会】

柿島 光晴

誰でも囲碁大会実行委員長／（一社）日本視覚障害者囲碁協会 代表



1. 開催概要

開催日：2022年8月28日（日）

開催場所：日本棋院

参加者数：80名（うち障害者20名）

※視覚障害、聴覚障害、脳性麻痺、知的障害、高次脳機能障害など

2. 開催目的

この囲碁大会は、『首都防災ウィーク』の一環として行われ、災害時における人と人との繋がりを再認識するために、とても重要なイベントとして位置づけられている。

囲碁は昔から『手談』と言われ、盤上での着手を介し、対局相手と対話することができる。対局中は、相手の考えていることが分かる場面があり、その人の人となりに触れられる瞬間が囲碁の魅力の一つである。終局時には、相手への尊敬と敬意が生まれ、まるでお酒を酌み交わした後のような仲になれることもある。

この繋がりがこそが、災害時の人の強さを生み、お互いを支え合う強い柱となる環境を築く。

しかし、いざ被災した時に誰が近くにいて支えてくれるかは分からない。もしかしたら孤独な状況に立たされるかも知れない。

そんな時にも心が折れないために、今大会を通して、自分が誰かと繋がりを持っていることに気づき、逆境をも乗り越えてもらいたいという思いから、開催を決定した。

3. 開催時の様子

選手で対局に集中する者、大会運営に回って裏方として奔走する者、その両方をこなす者、誰もが大会に関わったおかげで大成功したイベントだった。

また、囲碁は様々な障害に関係なく対局できるということが証明された大会であった。例えば、

脳性麻痺による手が不自由な方と視覚障害者との対局では、相手の手を取って、自分が置きたい場所を示したり、言葉で座標を教えてもらうことでスムーズに対局ができた。さらに、聴覚障害者と視覚障害者との対局では、お互いが分かるように置いた石の位置を伝えながら、こちらも問題なく打つことができた。今大会は、そういった障害の壁を超える意味でも文字通り『誰でも』であった。

4. 大会を終えて

囲碁は『人生の縮図』といわれることがある。拮抗した実力の相手との一局中には、文字通り山あり谷あり、ずっと良い形のままということは滅多にない。人生も順風満帆に行って欲しいと願ってみるものの、中々そうはさせてくれない。碁が一手一手で変化を起こすように、人生も誰と会うか、どんな行動を取るかで大きく変化するものだ。

参加された方々が、この大会をきっかけに、人と出会い、刺激を受け、どんな災害が来ても乗り越えられる力を備えてもらいたいと願う。

プロフィール

柿島光晴（かきじま みつはる）

東京都町田市生まれ、筑波大学附属盲学校（現、筑波大学附属視覚支援学校）卒業。

網膜色素変性症により25歳前後で失明。アニメ

『ヒカルの碁』をきっかけに囲碁を始める。失われていた視覚障害者用囲碁盤、通称アイゴを復活させ、全国の盲学校、視覚支援学校に寄贈や、国内外の視覚障害者にアイゴを届けている。コロナ禍後は、オンラインで『視覚障害者への囲碁入門講座』を配信している。活動テーマ【すべての人に囲碁を】のもと、誰でも囲碁で繋がる世界を目指している。

受賞歴：第31回人間力大賞 準グランプリ・厚

生労働大臣賞・まちづくり地球市民財団奨励賞受
賞。第16回 読売福祉文化賞受賞。

第一回「誰でも囲碁大会」

岡田結美子

公益財団法人日本棋院 棋士六段／誰でも囲碁大会実行委員会副委員長



柿島さんから「誰でも囲碁大会」の想いをお聞きして、「では日本棋院でやりたいですね」と話したのは、平塚盲学校を訪問した後の夕食時でした。

その時は、「囲碁大会だけでは参加者は多くないでしょう」と二人で予想して、とても軽い気持ちでスタートしました。

ところが、予想に反して反響が大きく、参加希望者がどんどん増えて80人を超えました

「囲碁ファンは碁を打つ事が楽しい」と当たり前の事に気づく機会となりました。

今回、手話通訳付きの囲碁講座は初体験。

「心の唄バンド」で、手話唄を担当されている竹さん、碁石さんのイラストを提供して下さっている「とろろさん」から、色々とアドバイスを頂き、「囲碁用語カンペ」も準備しました。

しかし、講座を始めて直ぐに、少年より鋭い質問が相次ぎ、あたふた。最後にはクイズの答えを間違える始末でした。動画にテロップ訂正が入る囲碁講座はきっと初めてでしょう。

皆さんの声をお聞きして改良して行きたいと思います。

さて、「防災と囲碁」について、日頃から人とつながりがあると、いざ大震災が起こった時に、大いに役立つ。囲碁は人と人をつなぐ役目となる。つながりが薄い今、大切な事ですね。

私自身は、大地震の備えが重要だと、頭では理解しても、面倒で行動に移さないでいました。今回、みらくるテレビの座談会へ参加して、絶対に行動に移します！と宣言しました。そのかいあって、ポータブル充電器と、ソーラーパネルを直ぐに購入しました。これも人とのつながりのお陰です。

この大会は、サポートする側される側に別れるのではなく、一緒に囲碁を楽しみましょうというスタイルが、とても居心地が良い。今後、棋士も大会に参加して碁を打つのもアリかもしれません。誰もが心地よい「誰でも囲碁大会」へ進んで行きたいと思います。



昭和45年(1970年)6月22日生。東京都出身。平成元年入段、15年六段。2002年、女流プロ最強戦優勝。2007年、通算300勝達成。囲碁普及に強い熱意を持ち、本年8月に日本棋院で開催された「史上初！誰でも囲碁大会」(多数の障がい者が参加)を柿島光晴氏と共にプロモートし、見事に成功させた。

第一回誰でも囲碁大会に参加して（高次脳機能障害者と家族）

柴本 礼（高次脳機能障がい当事者家族、イラストレーター、
東京高次脳機能障害協議会理事）



高次脳機能障害者は脳卒中や交通事故などで脳に障害を負う中途障害であり、それまでの世界が一転、行動範囲も狭くなり人との交流も激減する。だが障害症状はゆっくり改善していくもので、それにはリハビリや社会との接点があることが有効と思う。囲碁は頭を使い、囲碁大会は他者と交流できる場なので、症状改善と生き甲斐や楽しみを見つける居場所として非常にふさわしいと考える（家族談）。

【当事者の夫と囲碁大会に参加し感じた大変な点】

①易疲労性があるので、19路盤だとせいぜい1局が適当ゆえ、3局は難しい（できる人もいる）。→夫は1局で帰った。

②易疲労性があるので、会場への往復や会場にいてもエネルギーを消耗するゆえ、オンラインだと良い。（だがオンラインは家族のサポートが必要な場合も多いし、ネット環境も要るし、会場と比べ人との接点は限られてしまうのが難。）→夫は会場に着くだけで疲れ、非常に暑かったせいもあり、着くなり「参加しなくていいか。帰ろうか。」と言い出し、対局してもらうのに家族は苦労した。

③易怒性があるので、会場への往復や会場にいる時に本人に負担をかけないことが必要。機嫌が悪くなると、参加しないと言いだす可能性もあり、家族がなだめなくてはならない。

④記憶障害があるので、その日の外出目的を忘れないようにすることが必要。→夫は当日も、「今日は歌の会だね。」と言っていた。

⑤遂行機能障害や地誌的障害があるので、軽度の障害でない場合は家族など同行者が必要。

【参加して良かった点】

①負けたことが悔しく感情に訴えたようで、その記憶はずっと残った。（vs. 記憶障害）

②悔しがるとは、発奮に繋がった。（vs. 意欲低下）

③知っている人が沢山いたので、久しぶりに色々な人と会えて嬉しそうだった。
④いつもと違う非日常体験ができた（刺激になった）。
⑤来年もまた参加したい。囲碁は面白いので、もっと上手になりたい。今回は健常者との対局だったけれど、来年はほかの障害を持つ方と対局してみたい（本人談）。

【誰でも囲碁大会に参加して：パーキンソン病当事者】

参加したのは当事者お1人で、84歳女性。

●当日は雨だったが、往路は家族に日本棋院まで車で送ってもらったから問題なし。

復路は知人と日本棋院から電車で帰ったが、パーキンソン病は下りで歩みが止められないので、市ヶ谷駅の狭く急な下り階段は怖かった。1人だったら転倒して体や頭を打つ危険性がある。

●手が震えるので、アイゴはとても良かった。アイゴでないと、手が震えて自分や相手が置いた石を動かしてしまうから。

●9路盤を5回打ってとても楽しかった。来年もぜひ参加したい。

※私（柴本）の亡き父は大の囲碁好きでアマ8段だったが、パーキンソン病でも、もっと症状が重く歩けなかった。けれど、会場への往復に家族らのサポートさえがあれば、対局は可能と思う。きっと父ももっと囲碁を打ちたかったと思うし、存命だったら絶対この大会に参加したはず。

【柴本礼プロフィール】

夫が18年前の43歳の時、くも膜下出血から高次脳機能障害者となり、夫の社会復帰までを『日々コウジ中』『続・日々コウジ中』（主婦の友社）に描く。木谷正道さんに誘われ、5年前に夫婦で囲碁を始めると、障害症状改善と居場所づくりに役立つと確信、囲碁を続けている。東京高次脳機能障害協議会（TKK）理事。イラストレーター

第一回誰でも囲碁大会アンケート～聴覚障害者Ver.～ とろろ・竹DS・さとさと

1. 他の参加者との会話について

- ・筆談 14. 3%
- ・UDトーク（筆談アプリ） 0%
- ・その他 85. 7%

2. 手話通訳について

- ・数
 - 十分だった 57. 1%
 - 足りなかった 42. 9%
- ・配置
 - 適切だった 57. 1%
 - 不適切だった 42. 9%
- ・次回以降の参加
 - 参加する 14. 3%
 - 参加しない 0%
 - 参加するが通訳がいることが望ましい 85. 7%



3. 中級講座について

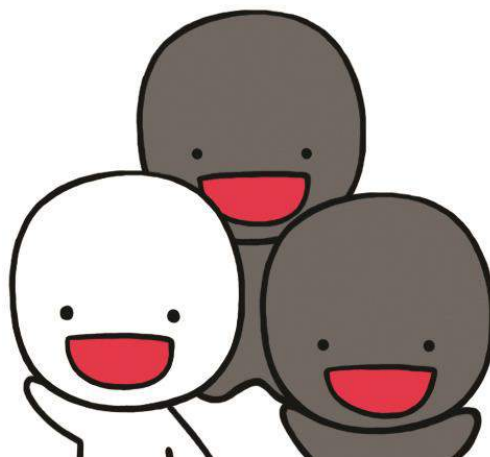
- ・講師が囲碁用語等を視覚情報として紙面に準備してくれたのがわかりやすかった。
- ・手話通訳がいたので良かった。
- ・もう少し難しい内容にしてほしい。
- ・死活問題もやってほしい。
- ・大会等の棋譜から具体例を挙げて解説してほしい。

4. 全体について

- ・来年は人数を多くして開催されると聞いていますが、できれば手話通訳者を3人か4人に増やし、配置も前、真ん中あたりに2人、後ろに1人という配置であればありがたいと思います。
- ・全体的に初めての催しにもかかわらずスムーズな進行だったのではないのでしょうか。トーナメントでしたが、時間に余裕があればリーグ戦もよかったかもしれませんね。
- ・素晴らしい大会でした。有難うございます！
- ・第1回目ですから試行錯誤の開催だと思います。ただ、出会いや交流の場として重要ですので、失敗や成功に関係なく続けていただければと思います。

【反省点】（運営の視点から）

- ・他の障害を持つ参加者との交流が今回ほとんどなかった。次回はそういった機会も作れるとよい。
- ・通訳の人数や配置は、当事者の意見を参考に、部屋のレイアウトや大会の内容と合わせて考える必要がある。通訳が見つらいという状況は今後はないようにしたい。
- ・通訳に加えて、視覚情報のサポートがあるとなお分かりやすいことを講師にも伝え、協力をお願いしていく。
- ・申込の方法やチラシを、より分かりやすいものにする。（聞こえない人にとって見やすい、使いやすいものは、聞こえる人にとっても同じように見やすく、使いやすい。）



首都と大船渡との「鎮魂と希望の竹灯かり連携」

木谷正道

首都防災ウィーク実行委員会事務局長・碁石海岸で囲碁まつり実行委員長



【第7回碁石海岸で囲碁まつり（2022年9月）】

三年ぶりに訪れた大船渡はあたたかでした。

風景、街並み、市民の皆さま、前と同じですべてが懐かしい。やっと帰ってこれた。

首都防災ウィーク終了後の9月23日～25日、岩手県大船渡市で「第7回碁石海岸で囲碁まつり」を開催しました。

「誰でも囲碁大会 in 大船渡」がメインテーマで、東京から25人が参加しました。

◆9月23日（金）

囲碁大会の先生は信田成仁七段（日本棋院）。



2014年の第一回来、ずっと参加くださっています。地元のバンドメンバーや親子連れなどに丁寧に指導されました。

続く特別記念フォーラムには、戸田公明市長、金昌治・日本棋院大船渡支部長、大和田東江・碁石地区復興まちづくり協議会会長、柿島光



晴・誰でも囲碁大会実行委員長（全盲）、竹DS（創作ソロ手話唄、聴覚障がい）、大石亜矢子（シンガーソングライター、全盲）、古本聡（（株）土屋取締役・最高文化責任者、脳性麻痺）、浅野史郎（元宮城県知事、オンライン出演）、原香織（みらくるTV番組編成部長）が出演（進行：木谷正道）。

戸田市長は、被災後11年半の復旧・復興の取り組みをプレゼンされ、あらためて、本当に大変な日々であったことを思いました。フォーラムの最後に、全盲の歌姫・大石亜矢子さん（シンガーソングライター）が、アメイジン

グ・グレイスを弾き語り、胸に沁みました。

QRコードから動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=S0CQWR-S83A>



◆9月24日（土）

二日目は、囲碁大会と「夢のコンサート」。コンサートには、

LoveSingers（気仙沼のユニット）、大石亜矢子、木谷正道&心の唄バンド（竹DS、丸山泰明、佐野和子）、

香織&MIKUMI（天使のダンス、特別支援学校高三、ダウン症）が出演しました。

コンサートの動画は、QRコードから。

<https://www.youtube.com/watch?v=77du0YgnQMs>



翌月、10月13日に、市制施行70周年の記念式典が開催され、聖成崇夫さん、藤田千晴さんと一緒に参加しました。

こちらが感謝申し上げるべき立場なのに、「碁石海岸で囲碁まつり実行委員会」が感謝状をいただきました。「心温まるご支援」の文言に胸が熱くなりました。ありがとうございました。

その翌日、昼食をご一緒した大和田さんがこう言われました。

「木谷さん、来年は関東大震災100年なんでしょう？」

「そうです」

「それなら、100本の竹を切りましょう」



2021年に、大和田さんたちが40本の竹を切って下さり、竹灯かりを作って首都防災ウィークの会場を照らしました。



100本切るのは大変な作業ですが、二度とない機会なので、ご好意をお受けすることになりました。



こうして、大船渡と東京の連携が「関東大震災100年・第11回首都防災ウィーク」の主軸になり、かつて

ない22日間の連続開催へと発展しました。

竹の切り出し（2023年7月）、障がいを持つ方々や若者たちによる「竹明かり制作ワークショップ」（8月）、竹灯かりの中で開催される開會式（20日）、鎮魂と希望の世界音楽祭（9月9日）、最終日の防災フォーラム（10日）。

竹灯かりは大船渡に「里帰り」して、10月14日夜、第8回囲碁まつりの初日に開催される「鎮魂と希望の音楽神社祭」を照らします。

【連携の経過】

2013年、「関東大震災90年」を機に始まった首都防災ウィークは全国連携の輪を拡げました。

その最も重要な地域が、岩手県大船渡市でした。

2011年3月の東日本大震災で、大船渡の市街地は壊滅的被害を受けました。

2012年10月、私たちは大船渡市碁石地区の復興を支援していた「災害復興まちづくり支援機構」の中野明安さん（事務局長、現代表）と藤田千晴さん（中小企業診断士、現地常駐）を通

じて、碁石地区復興まちづくり協議会（大和田東江会長）からの要望（復興イベント「碁石海岸で囲碁まつり」の開催）を伺いました。

これが首都防災と大船渡復興連携の始まりです。以後、10年の間に、たくさんの方々のご努力により、数多くの取り組みがなされました。

2014年1月：棋聖戦第四局前夜祭（川越市）故小川誠子七段のご紹介で、大船渡市出身の石鍋博子さんにお会いしました。

石鍋さんは大船渡市が被災地としてではなく、「囲碁のまち大船渡」を市民が誇りにできるようにしたいこと、JR大船渡線を「囲碁列車」にしたいことなどを熱を込めて話されました。

2014年2月：「碁石海岸で囲碁まつり実行委員会」設立。UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部)の会長をしておられた松川淳子さんの事務所、急遽、実行委員会を設立しました。

2014年3月：初めて大船渡を訪問しました。誰一人、お会いしたことがありません。大和田会長のお計らいで、仮設住宅の相談室に起居させていただきました。

「囲碁列車」を走らせようと三陸鉄道に相談したら、「木谷さん、振動で石が動いてしまうから無理ですよ」と言われました。それはそうです。

友人の柿島光晴さんが普及を進めている視覚障がい者用碁盤アイゴを思い出しました。盤面を触りながら打つ、すばらしい碁盤です。アイゴは、座席のテーブルにぴたりとはまりました。

2014年7月： 第一回碁石海岸で囲碁まつり 首都圏から80人が参加しました。

釜石から盛（大船渡市）までの三陸鉄道「囲碁列車」は大人気で、一度も車窓を視ない方がいたと聞きました。



三鉄「囲碁列車」と謝 依旻七段

碁石地区にバスで行くと、あちこちに「碁石」の看板があります。そのたびに、「ここにも『碁石』が」という歓声があがりました。



前夜祭会場のレストハウス前には多くの大漁旗を掲げた地元の方々の大歓迎を受け、感激しました。

2015 年 6 月：第二回碁まつり・「碁石のまち大船渡請願署名」に 10,926 筆

大船渡商工会議所の齊藤俊明会頭（現、大船渡市観光物産協会会長）や中林一樹氏（首都防災ウィーク実行委員会代表）、全ての地区公民館長に代表世話人になっていただき、「碁石のまち大船渡による復興と振興請願署名」運動を行いました。2 か月の間に何と 10,926 筆が集まり、市議会に提出しました。人口 3 万人余の大船渡市ですから、大変な数です。うち半数が外国を含む大船渡市外の署名でした。大船渡市議会は全員起立で請願を採択してくれました。

2016 年 6 月：「碁石神社」（第 3 回碁まつり）

石鍋さんが、「碁石の聖地には碁石神社が必要だ」と突拍子もないことを話し始めました。

そんなことはできっこないと思っていたら、碁石地区にある熊野神社に通称「碁石神社」を名乗っていただけないだろうかという話になりました。地域に三体あった石の碁盤の一体が消失しており、村上征一さん（碁石地区協議会副会長）が「石の碁盤」を奉納すれば、やがて「碁石神社」と呼ばれるようになるだろうと。

志田隆人宮司もご快諾くださいました。

6 月 10 日、盛大に「碁石神社『石の碁盤』奉納祭」が開催されました。碁盤の台座には、台湾出身の名棋士・林海峰名誉天元が揮毫された「碁石神社」の文字が刻まれました。石の碁盤制作、奉納祭は全て、金昌治さんのお取り計らいです。



2017 年 5 月：第四回碁まつりで「全国・台湾盲学校碁碁大会」を開催

NHK おはよう日本、NHK ワールドなどで放送されました。

大船渡市は、「碁石の日（5 月 14 日）」を制定しました。



2017 年 9 月：第 5 回首都防災ウィーク（両国）で大船渡サンマ 1000 尾炭火焼き・戸田市長特別講演



岩崎晴都君（現、日本棋院院生）

2018 年 2 月：最高棋戦「棋聖戦」開催。

念願のタイトル戦招致が実現しました。大歓迎の模様を小論冒頭の「フォーラム動画」でご覧ください

2019 年 5 月：「本因坊戦」第一局開催

最も伝統のあるタイトル戦。

三鉄全線 163 km に「碁碁列車・音楽列車」が走りました。



盛駅前の本因坊戦歓迎集会

【未来に向かって】

2014年に初めて戸田市長にお会いした時、「一過性のイベントにはしないでいただきたい」と言われました。

以来、「持続的な復興と振興」を目指して、可能な限りの取り組みを行ってきました。

しかし現実には、引き続き過疎化・超高齢化の進行に加え、漁獲高の激減があり、「持続的振興」の実現は容易ではないです。大船渡市の苦悩もここにあると思います。

私たちは、引き続き大船渡の皆さまとの連携を拡げ、深め、次の課題に取り組み、持続的振興の仕組みをつくりたいと考えています。

- 1 囲碁ホテル・囲碁旅館：首都圏・全国の囲碁ファンに呼びかけ、不用の碁盤を大船渡に送っていただく。どこに泊まっても碁が打てる「囲碁のまち」に。
- 2 三大タイトル戦開催（残るは名人戦）：コロナで一旦は挫折しましたが、がんばりたい。
- 3 囲碁神社をライブスポットに：海が見える高台にある囲碁神社を、全国のミュージシャンが集まるライブスポット（集客・収益施設）にして、地域経営の核にしたい。
- 4 常設囲碁列車：鉄道を単なる移動手段でな



く、学習、交流、脳力アップ、認知症予防の空間とし、全国ローカル鉄道のモデルにする。

- 5 人工海底山脈：第11回首都防災ウィークのメインテーマの一つ。大震災からの迅速な復興と漁業振興・食料増産を実現したいと考えています。意見交換させていただければ幸いです。

- 6 「ヘキゴ」：未来に延びる屋外ギャラリー
・・・「囲碁のまち」が見える！

今、沿岸には長大な防潮堤がつくられ、海が見えません。殺風景な防潮堤に、毎年1枚ずつ囲碁の写真や絵を描き、未来に延び続ける屋外ギャラリーにする。大船渡に一步入れば、「囲碁のまち」が見える！ 大船渡の皆さまの思い出と歴史が刻まれ、観光名所になると思います。



この10年、不思議なご縁をいただきました。
戸田市長と観光交流推進室、金支部長、大和田会長はじめ全ての皆さまに心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

— Gallery —

- ・ 8月27日(土)～9月4日(日) みらくるTV 特別番組 3頁
- ・ 9月3日(土) 防災講演会・口笛・防災フォーラム 3頁
- ・ 9月4日(日) 世界音楽祭 3頁
- ・ 8月28日(日) 誰でも囲碁大会 4頁



ー 第10回首都防災ウィーク特番（みらくるTV） 1 ー



220827 第10回首都防災ウィーク開幕スペシャル



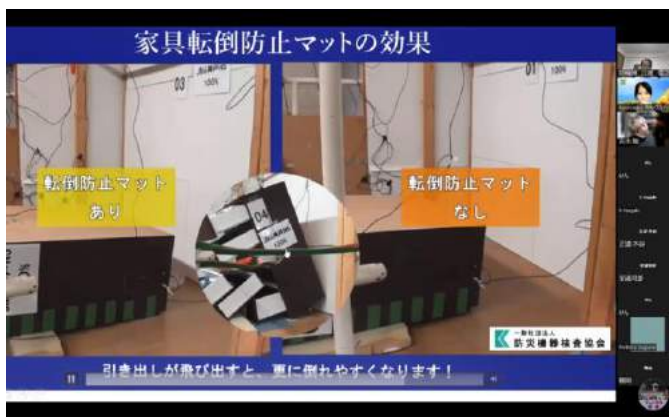
220827 学生の力を活かす新宿戸塚のまちづくり



220827 UIFA JAPON の被災地支援「だれフォトニュース12年」



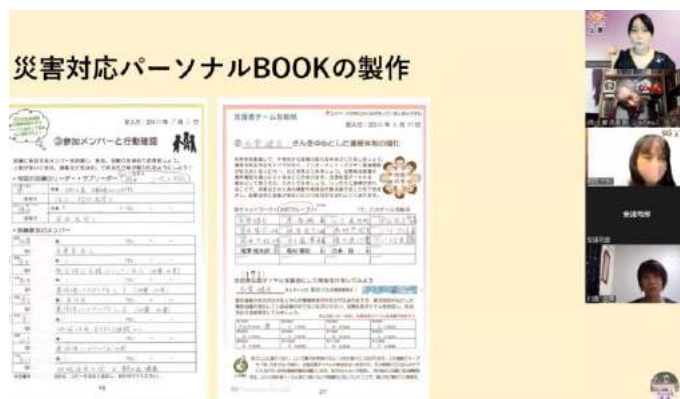
220827 復興トーク&音楽 白井崇陽・原香織



220827 今日からできる地震対策チャンネル～在宅避難の啓発



220828 朝の体操 原香織&MIKUMI



220828 土屋！～民間主導！在宅要支援者個別避難計画



220829 関東大震災写真展 Ⅰ

ー 第10回首都防災ウィーク特番（みらくるTV） 2 ー



220829 復興トーク&音楽 大石亜矢子・原香織



220830 関東大震災写真展 2



220830 復興トーク&音楽 片岡亮太・原香織



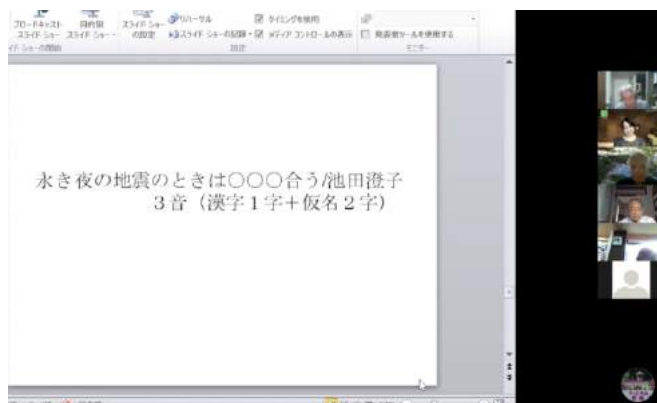
220831 防災専門図書館動画Ⅲ 探訪(閲覧室編)



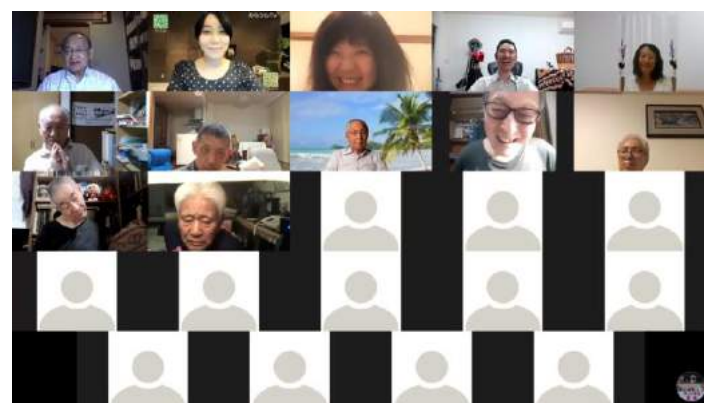
220831 防災シンポジウム 危機管理防災学会 「災害リスクの見える化」



220901 関東大震災写真展 Ⅰ



220901 クイズ「穴あき俳句で考える防災」一句多会 藤村望洋

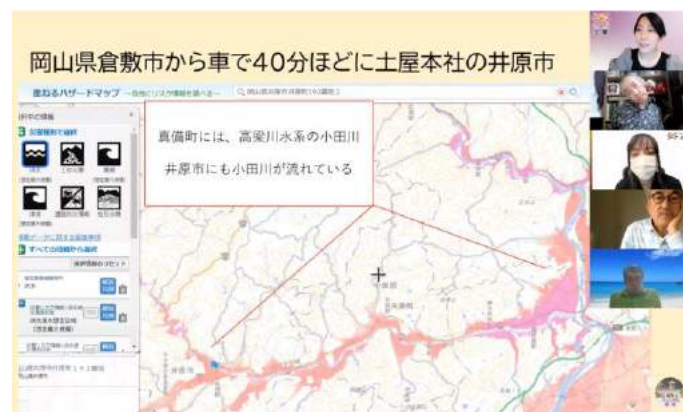


220901 障がい者と囲碁、そして防災 浅野史郎

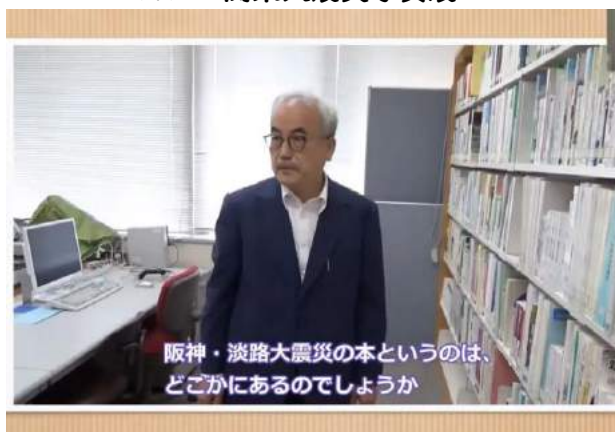
ー 第10回首都防災ウィーク特番（みらくるTV） 3 ー



220902 関東大震災写真展 2



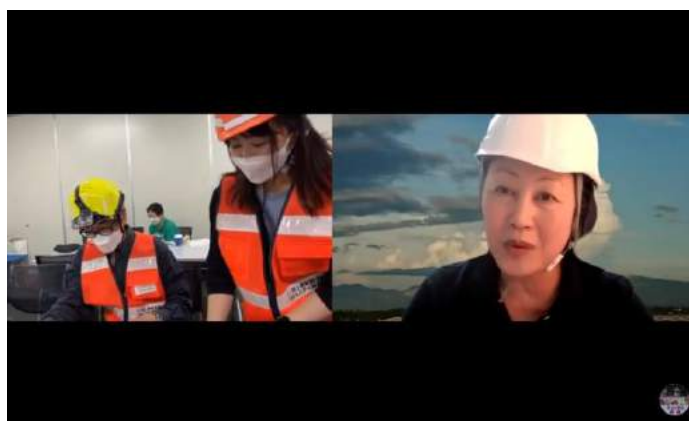
220902 土屋2 ～個別避難計画を計画だけで終わせない



220902 防災専門図書館動画Ⅱ 探訪



220902 首都を襲う巨大水害 ～どう生き延びるか
中瀬勝義、瀧澤一郎、中林一樹



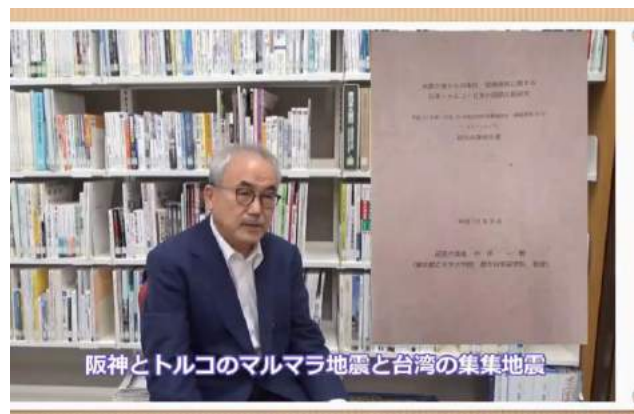
220902 福祉施設防災防災訓練パワーアップTV
(一社)福祉防災コミュニティ協会



220903 今、障害福祉を考える 浅野史郎



220904 朝の体操 原香織&MIKUMI



220904 防災専門図書館動画Ⅰ

－ 第 10 回首都防災ウィーク特番（誰でも囲碁大会） 1 －



そろそろ開会式をはじめます！



誰でも囲碁大会 実行委員長 柿島光晴 挨拶



誰でも囲碁大会 実行委員長 柿島光晴 挨拶 2



首都防災ウィーク 実行委員長 中林一樹 挨拶



首都防災ウィーク実行委員長 中林一樹 挨拶 2



首都防災ウィーク実行委員長 中林一樹 挨拶 3



本日の流れ説明



各囲碁講座の場所の説明

－ 第 10 回首都防災ウィーク特番（誰でも囲碁大会） 2 －



能勢さん（脳性麻痺）の囲碁指導、生徒は古本さん



能勢さん（脳性麻痺）の囲碁指導、生徒は古本さん2



水間八段 入門講座



水間八段 入門講座2



竹 DS さん 聴覚障害者向け入門講座



竹 DS さん 聴覚障害者向け入門講座



柿島光晴さん 視覚障害者への入門講座



柿島光晴さん 視覚障害者への入門講座2

ー 第 10 回首都防災ウィーク特番（誰でも囲碁大会） 3 ー



岡田結美子六段 入門講座



岡田結美子六段 入門講座 2



中里さんとみくさんの対局



柿島さん（全盲）と小溝さんの対局



岡田六段があかりちゃん（5歳）を指導



古本さんと未来ちゃんの対局



岡田六段が未来ちゃんを指導



木谷さんが能勢さんに敗北（最強戦）

ー 第 10 回首都防災ウィーク特番（誰でも囲碁大会） 4 ー



お絵描きタイム



お絵描きタイム 2



みんな仲良し



お最強戦最終戦(菊沢さんが青柳さんを破り優勝)



昼休み トーク ～囲碁大会に参加して



昼休み トーク ～囲碁大会に参加して 2



表彰式 最強戦優勝者 菊沢さん



閉会式 挨拶 岡田結美子 副実行委員長

ー 第10回首都防災ウィーク特番（世界音楽祭） 1 ー



鎮魂と希望 世界音楽祭 開会 大太鼓一人打ち



大太鼓一人打ち 片岡亮太



開会挨拶 司会 原香織、手話通訳 佐野和子



韓国より キムビョンス キムヨノック 生出演



キム(韓国) 木谷(日本) トーク



キムヨノック (フルート)、イソンハ (バイオリン)



キムビョンス(ソプラノサックス)



台北市立啓明盲学校 チャン校長先生

－ 第 10 回首都防災ウィーク特番（世界音楽祭） 2 －



啓明盲学校生徒の皆さん 你的答案（君の答え）



啓明盲学校生徒の皆さん ピンクパンサー



啓明盲学校生徒の皆さん ピンクパンサー 2



新宿フルートアンサンブルの皆さん



新宿フルートアンサンブルの皆さん 2



第 2 部 アジャーリア（片岡亮太、山村優子）



アジャーリア（片岡亮太、山村優子） 2



大石亜矢子・竹 DS アメイジンググレイス

－ 第 10 回首都防災ウィーク特番（世界音楽祭） 3 －



MIKUMI(ダンス)原香織(歌)
大石亜矢子(ピアノ)丸山泰明(ボーイパ)



MIKUMI(ダンス)原香織(歌)
大石亜矢子(ピアノ)丸山泰明(ボーイパ)



心の唄バンド(木谷正道、竹 DS、佐野和子
丸山泰明)、大石亜矢子(ピアノ)



心の唄バンド(木谷正道、竹 DS、佐野和子
丸山泰明)、大石亜矢子(ピアノ)



佐野和子 (波の音)



丸山泰明 (ボイスパーカッション)



心の唄バンド 島唄 木谷正道(歌・ギター)



閉会の挨拶 司会 原香織、手話通訳 佐野和子

ー 第 10 回首都防災ウィーク特番（防災講演会 & 口笛） 1 ー



関東大震災 100 年 防災講演会 開会式 上杉常務理事



防災講演会 開会挨拶 住吉理事長



防災講演会 開会挨拶 住吉理事長 2



防災講演会 開会挨拶 上杉常務理事講演者 紅林氏の紹介



首都防災講演会 講演者 紅林章夫 挨拶



築地大橋(平成 30 年 隅田川で一番新しい橋)



誰築地大橋(2020 東京パラ五輪時のライトアップ)



当時の勝関橋（昭和 15 年）

ー 第 10 回首都防災ウィーク特番（防災講演会＆口笛） 2 ー



現在の勝鬨橋（夜間のライトアップ）



佃大橋 当時の最先端の橋



佃大橋が出来る前の渡し舟(昭和 39 年に廃止)



中央大橋にある「メッセンジャー」ザッキン作



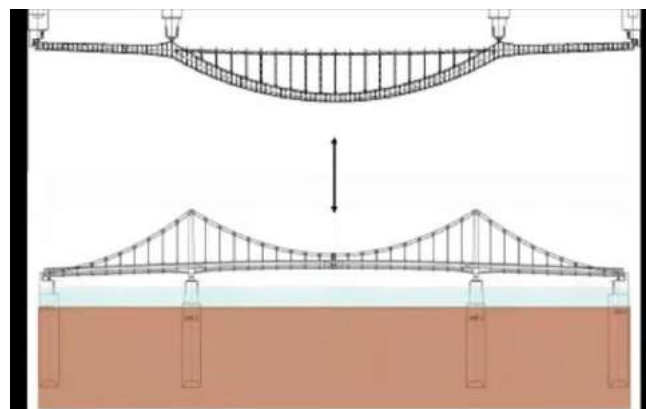
永代橋



リベットを使用 永代橋の景観的ポイント

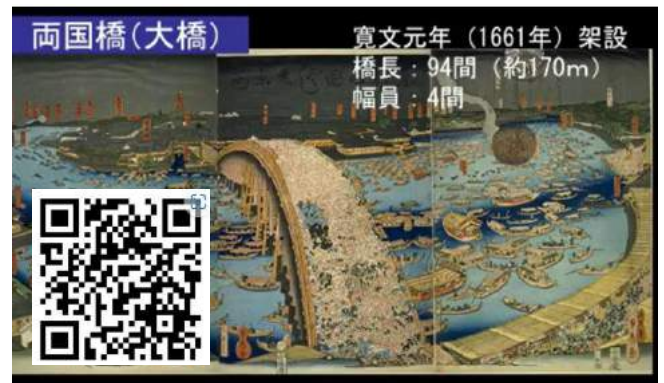


清洲橋(こちらも関東大震災の復興 吊り橋)

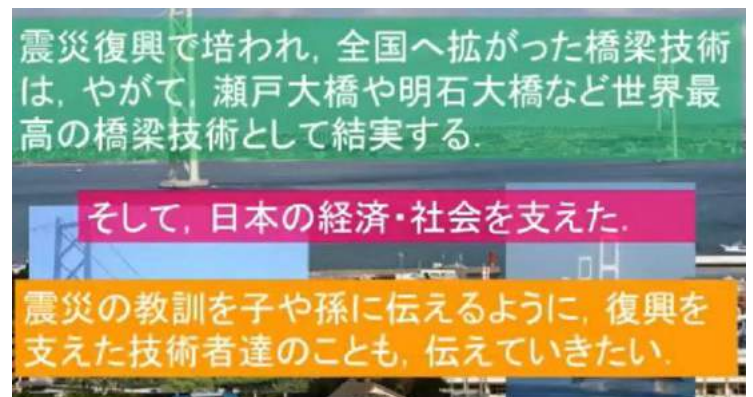


震災復興の頃は永代橋と清洲橋が隣同士で
このようなデザインとなった

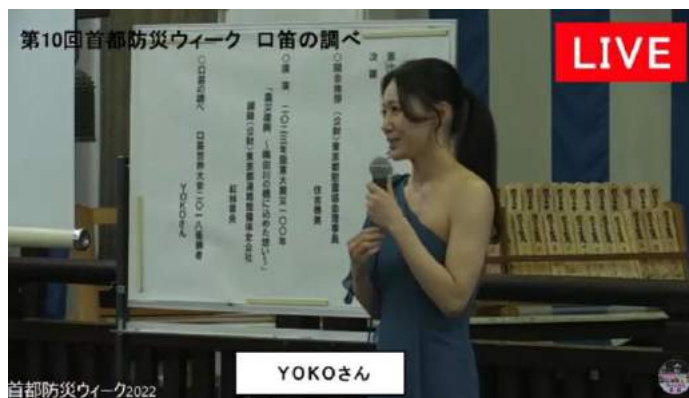
ー 第10回首都防災ウィーク特番（防災講演会＆口笛）3 ー



↑ 橋の博物館、橋の天来会は上記のQRコードへ



紅林氏講演 最終スライド



口笛の調べ YOKOさん



口笛の調べ YOKOさん2



口笛の調べ YOKOさん3



口笛の調べ YOKOさん4

ー 第10回首都防災ウィーク特番（防災フォーラム） 1 ー



防災フォーラム 開会式 総合司会 岡野谷純



防災フォーラム 開会式 挨拶 中林一樹



防災フォーラム 開会式 中林実行委員長挨拶 舞台裏



防災フォーラム会場 慰霊堂内の様子



墨田区長 山本亨氏挨拶文 代読 椎名氏



共催 公益財団法人東京都慰霊協会 住吉理事長 挨拶

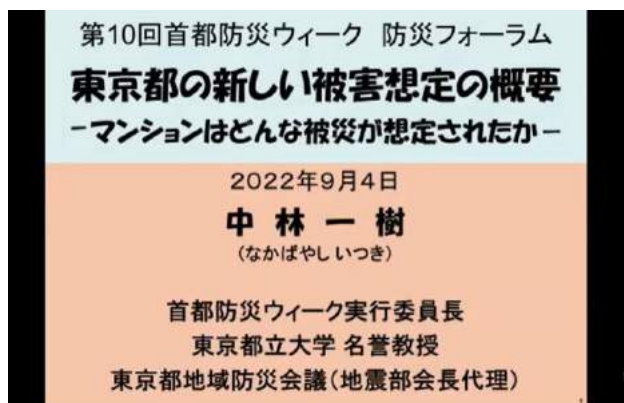


共催 全国市有物件災害共済会 三富氏挨拶 代読 渡辺氏

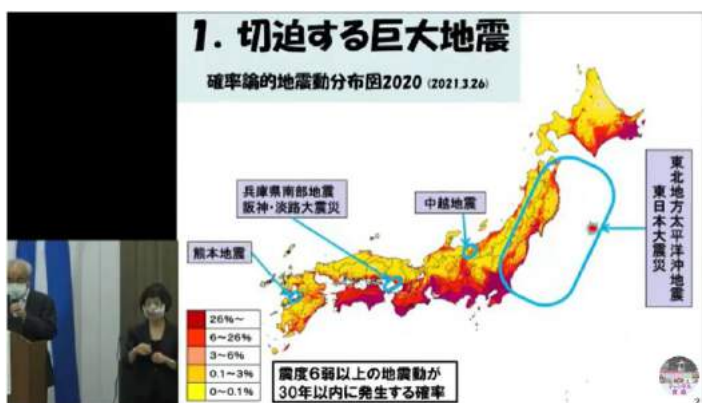


共催 東京いのちのポータルサイト理事長 瀧澤一郎氏

ー 第10回首都防災ウィーク特番（防災フォーラム） 2 ー



中林一樹氏 講演



中林一樹氏 講演



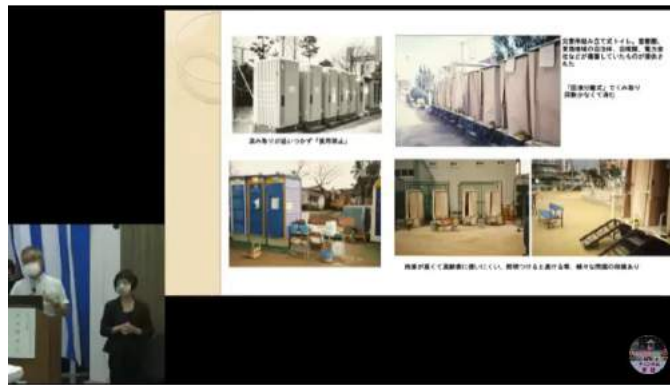
マンション防災協会・跡見学園女子大学
鍵屋一氏 講演



鍵屋一氏 講演 スライド



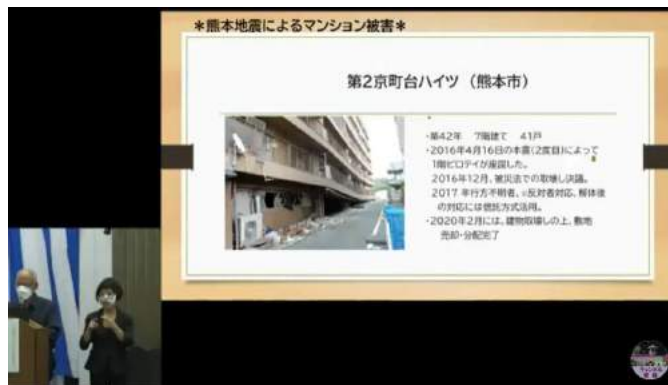
日本トイレ協会(災害・仮設トイレ研究会) 山本耕平氏



山本耕平氏 講演 スライド



元首都圏マンション管理士会副理事長 木村孝氏



木村孝氏 講演 スライド

ー 第10回首都防災ウィーク特番（防災フォーラム） 3 ー



前半終了 後半はディスカッション



ディスカッション コーディネーター 中林一樹



ディスカッション 発言者 瀧澤一郎



ディスカッション 発言者 鍵屋一



ディスカッション 発言者 木村孝



ディスカッション風景

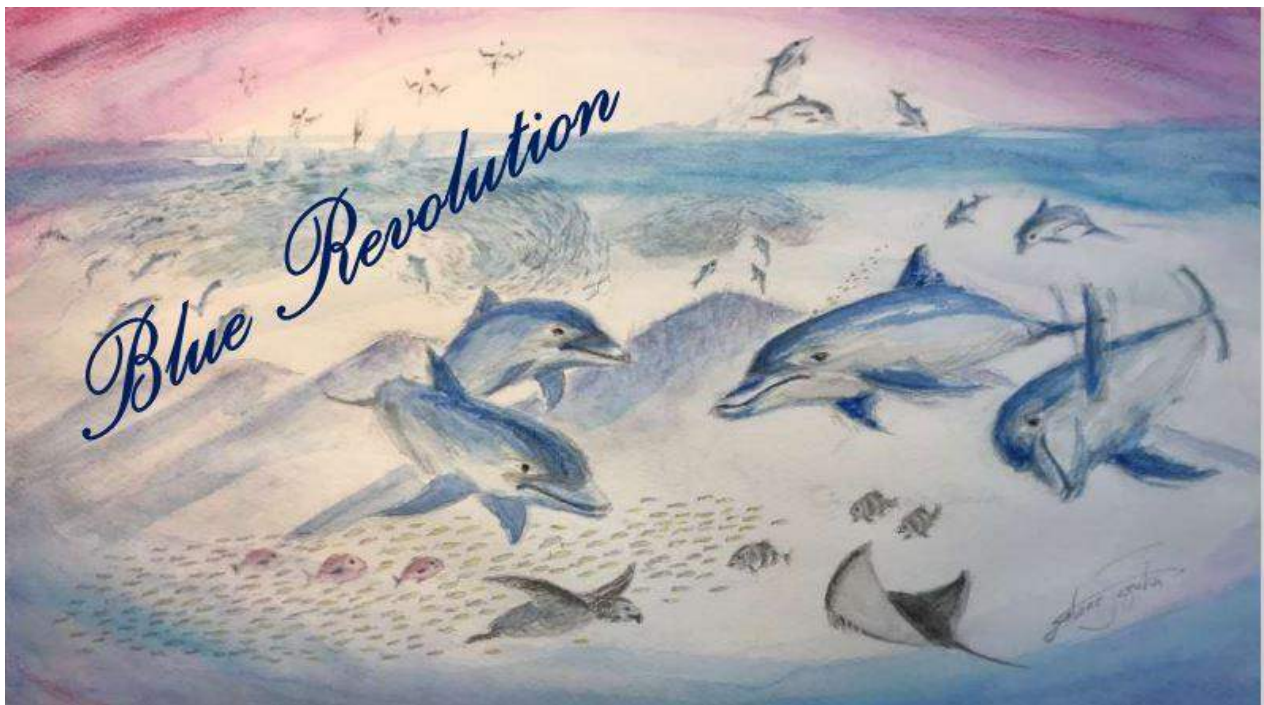


ディスカッション 発言者 山本耕平



防災フォーラム 閉会挨拶 中林一樹

日本の沿岸漁業の復活、カーボンニュートラルの促進とともに
巨大災害からの首都と全国の迅速で創造的復興に貢献する
『シティコンで建設する海底山脈プロジェクト』の提案



令和3年(2021年)12月

提案者代表

中林一樹（首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授）

共同提案者 91名

日本の沿岸漁業の復活、カーボンニュートラルの促進とともに 巨大災害からの首都と全国の迅速で創造的復興に貢献する

『シティコンで建設する海底山脈プロジェクト』の提案

【提案の主旨】

私たちは、全国の沿岸海域に、シティコン(都市施設やビルから切り出すコンクリート塊)を環境安全性を確保した新たな資源材として「人工海底山脈」を建設するという、新たな社会技術の確立を提案します。

このシティコンでの海底山脈の建設によって、

- (1) 魚の増殖による沿岸漁業の復活と地域活性化、日本の食料自給率向上と食生活安定化を推進する
- (2) 「海の森林(植物プランクトン増殖)」などによる日本のカーボンニュートラル(脱炭素)を促進する
- (3) 首都直下地震など巨大震災からの迅速で創造的な復興に貢献することが可能になります。

我が国で開発され、水産庁や県が実施してきた「人工海底山脈(マウンド礁)」事業は、世界に誇れる優れた社会技術です。この建設材料として、新たにシティコンを採用することにより、漁業振興やカーボンニュートラルの効果を日本全体に拡げることができます。

新型コロナ禍で疲弊した我が国の社会経済のみならず、世界にも貢献できるこの取組みを、すべての地域社会と人々、団体、企業に呼びかけてその輪を拡げ、実現したいと思います。

政府、自治体には、時宜にかなう政策としてご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

【提案の概要と背景】

今、日本の漁業は、沿岸漁獲高が30年間で200万トンから100万トンに半減するなど、衰退を続けています。これに対し、様々な漁業振興事業が実施されてきました。

その一つが「人工海底山脈(マウンド礁)」です。

海底に高さ30m程度の「小山」を建設することにより、海流に変化が生じ、海底の栄養分が太陽光の到達する表層に運ばれるため、表層で光合成が活発になります。光合成の結果、海中のCO₂が固定されて大量の植物プランクトンが発生し、食物連鎖により魚が殖えます。植物プランクトンや藻類は「海の森林」ともいわれ、カーボンニュートラル(脱炭素)にも貢献します。

1995年の実証事業以来、水産庁と6県(長崎、鹿児島、静岡、宮崎、鳥取、島根)により17基の海底山脈が建設され、稼働しています。

2015年に完成した五島西方沖海底山脈の大きさは、東京ドームの三分の一程度です(35万m³)。資源保護のため、中心の11km²は禁漁区とされましたが、その周辺の漁獲高は約10年で2倍になりました。総費用129億円に対し便益額は433億円、費用便益比は3.36倍、直轄事業平均では2.59倍です(水産庁評価書による)。

しかも人工海底山脈は、いったん建設すればメンテナンスの必要がなく、半永久的に植物プランクトンを増殖し続け、沿岸漁業回復の効果が持続します。

日本全国の水深50m～200mの沿岸域は34万km²、このうち97%は海底が平坦で生産性の低い海域です。ここに人工海底山脈を設置することができれば、広大な海域が「天然の豊穡の海」となり、沿岸漁業の復活と地域活性化、過疎化防止に貢献するのみでなく、漁業分野における日本の食料自給率の向上が可能となり、豊かな食材の安定提供は、全ての国民と社会経済に恩恵をもたらします。

これまでの人工海底山脈は、原材料としてブロックや自然石が使われてきました。しかし、原材料取得費が一基数億円以上かかることもあり、全国に海底山脈を拡げるのは容易ではありませんでした。

ここで、都市で大量に発生するシティコンを人工海底山脈の資源材として活用する構想が生まれました。

東京など大都市では、昭和30年代以降に建設されたビルや橋などが老朽化し、建て替えにより大量のコンクリート塊が発生しています。コンクリート塊はビル所有者などの経費負担でリサイクル処理をして、鉄筋を除去し、細かく破碎し、再生資源として利活用されています。その過程で多大なコストと時間とエネルギーが必要になるばかりか、将来は利活用先(需要)も先細ってくると予想されています。

このコンクリート塊を大割のまま鉄筋とともに切り出して、資源材として環境に負荷を与えずに活用するための法制度や諸基準を整備し、搬送や流通などの仕組みを構築するならば、海底山脈建設コストは大幅に低下し、全国に拡げることができます。

各方面へのヒアリング等に基づく試算では、シティコン海底山脈の建設費は従来型海底山脈の1/4程度、事業効果(費用便益比)は、漁業振興だけで従来型の3.36倍が10倍程度になることが可能です。これにより、ビルなどの解体処理費用とエネルギーが節約できることに加え、海洋環境の再生と魚増殖による沿岸漁業の復活および海域と陸域のカーボンニュートラルの促進を可能とするでしょう。

シティコン海底山脈は、都市のコンクリート塊が「廃棄物」とであるという従来の観念を根本的に変え、3R(Reduce(廃棄物発生の抑制)、Reuse(ビルの修復などによる再利用)、Recycle(分解して基礎資源として再活用))に加え、第四のR(Resource)として、コンクリート塊そのままを資源として活用する画期的な可能性を拓くものです。

一方、首都直下地震や南海トラフ地震が発生する確率は30年以内に70～80%ともいわれ、切迫する巨大災害への対応は焦眉の国家的課題です。私たちは、震災の被害軽減は一人一人の国民による自助の取り組みこそが基本であると考え、2002年から、住宅の耐震補強や家具固定など、民間からの防災の啓発と実践を始めました。

2013年(関東大震災90周年)からは、大震災で3万8千人が焼死した横網町公園・東京都慰霊堂を会場に、研究者、NPO、市民団体、行政関係者などに呼びかけて「首都防災ウィーク」を開催してきました。

2018年からはシティコンを用いた人工海底山脈について、防災、まちづくり、障がい福祉、看護、水産、環境、土木、建築などの研究者とNPO諸団体が協働し、シティコン研究会を立ち上げて検討を続けてきました。

中央防災会議の被害想定(2013年)によると、首都直下地震では一瞬の揺れで多数の建物等が倒壊し、約6,400万トンのコンクリート塊が、南海トラフ巨大地震では16,900万トンが

発生すると想定されています。これは東日本大震災で発生したコンクリート塊900万トンの26倍です。コンクリートは減容できず、都市部には仮置き場も埋立て水面も少ないため、従来のリサイクル処理では全国に搬出して処理するなど多額な費用と処理期間の長期化が生じ、迅速な復興は困難になると思われます。

さらに、三大都市圏、特に首都の復興の遅れは、日本の社会経済に危機をもたらし、世界経済にも甚大な影響を及ぼすことが危惧されます。

災害時に大量に発生するコンクリート塊もまた、資源材として人工海底山脈建設に活用すれば、超長期化が懸念される復興期間の短縮と処理費用の軽減及び、海底山脈のもたらす成果(魚の増殖による沿岸漁業の復活と地域活性化、カーボンニュートラルの促進)によって、被災地のみならず日本全体の迅速で創造的な復興が可能になります。

2021年9月の第9回首都防災ウィークでは、現地会場とオンライン配信で防災フォーラムを開催し、多くの参加者とともに集中的に議論しました。その後も検討を継続した結果、

適切な法制度と、環境安全性を確保するための利用基準の整備等を行うならば、人工海底山脈の平時の建設資源材としてシティコンを活用することが可能であり、巨大震災時に発生する大量のコンクリート塊もまた、シティコン海底山脈建設促進に活用できるという結論に達し、政府、自治体、漁業関係者をはじめとする皆さまに、提案させていただくことといたしました。

私たちはこの提案に、未来への夢と希望を託しています。

陸と海、大都市と地方、消費者と生産者が連携し、みんなの知恵と力を合わせるならば、国家的課題である沿岸漁業振興と地域活性化、カーボンニュートラルに大きく貢献すると共に、国難ともいふべき巨大災害にも屈することなく、日本全体の創造的復興を進める一歩にすることができると確信します。

政府各省庁(特に内閣官房、内閣府、農林水産省・水産庁、環境省、国土交通省)、全国の都道府県・市町村、漁業関係者、建設事業関係者、関連諸団体などのご協力と連携により、以下の事項の検討とその実現に向けての取り組みの推進を提案し、要望します。

全国の皆さまにおかれましては、幅広いご賛同とご支援を、お願い申し上げます。

【提案及び検討事項】

- 1 本提案の意義(シティコンを資源材として人工海底山脈に活用することによる、①日本の沿岸漁業の復活、②日本のカーボンニュートラルの促進、③巨大災害からの首都と全国の迅速で創造的な復興)を理解され、そのための仕組みを各方面において整備していただくこと。
- 2 環境省におかれては、海底山脈の建設材料として、従来の石炭灰ブロックや通常のコンクリートブロック、石材に加え、新たにシティコンを活用するために、環境安全性を確保する基準とともに、利活用範囲や工法等の関連法制度を整備し、新たな処理制度を構築していただくこと。
- 3 水産庁におかれては、海底山脈の建設による海洋環境改善と沿岸漁業復活は新たな国土づくりとしての国家的事業であるため、国の全面的な支援の下に推進していただくこと。
- 4 水産庁におかれては、海底山脈建設を希望する沿岸自治体を全国から公募し、基礎調査の実施、関係自治体及び漁業関係者・組織等による取り組み体制、実証事業を含む整備計画の作成等への支援制度を構築していただくこと。

5 水産庁におかれては、整備計画が整った自治体から順次海底山脈を建設するために、シティコンによる海底山脈の建設技術の確立とともに、シティコン利活用推進体制(組織)を構築していただくこと。

なお、平時に年間排出されるシティコンの規模をもとに推計すると、30年間で全国の海域に必要な海底山脈を建設することが可能です。大規模災害発生時には、さらに短期間にその規模に相当するシティコンが利活用できると推定されます。

6 国土交通省におかれては、シティコンが調達できる大都市部から海底山脈の建設が可能な海域まで、効率的にシティコンを搬送する陸路及び港湾・海路の整備と搬送システムを構築していただくこと。

7 環境省におかれては、巨大震災発生時に向けて、シティコンの資源化を含む災害時の廃棄物処理計画を確立し、処理体制を構築するとともに、他省庁と連携して上記の整備計画を前倒しして海底山脈建設を推進し、国家事業として被災地のみならず全国沿岸海域の創造的復興に寄与していただくこと。

8 内閣官房におかれては、国土強靱化計画の中にこの提案を位置づけ、推進いただくこと。

9 内閣府におかれては、この提案の実現に向けて、内閣官房、環境省、農林水産省・水産庁、国土交通省など政府内の省庁連携に、関連研究機関を加えた研究開発体制(コンソーシアム)を構築していただくこと。提案の実現には政府における関係省庁の連携と研究機関による協働体制が不可欠だからです。

令和3年12月

提案者代表 中林一樹(首都防災ウィーク実行委員会代表、東京都立大学名誉教授)

共同提案者(12月20日現在)

浅野史郎(元宮城県知事、(一社)福祉防災コミュニティ協会会長)

有川太郎(中央大学教授)

石田篤司(日本棋院九段)

板垣 喜代子(弘前医療福祉大学教授)

上田紘士(自治研修協会常務理事、自治大学校客員教授)

大石亜矢子(シンガーソングライター(テーマソング「未来の海」詞曲弾き語り)、全盲)

大和田東江(大船渡市・碁石地区復興まちづくり協議会会長)

岡野谷 純(NPO 法人日本ファーストエイドソサエティ代表)

鍵屋 一(跡見学園女子大学教授、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事)

柿島光晴((一社)日本視覚障害者囲碁協会代表理事、全盲)

木谷正道(首都防災ウィーク実行委員会事務局長、日本棋院平塚支部長)

古本 聡((株)土屋取締役・最高文化責任者、土屋総合研究所所長、脳性麻痺)

鈴木達雄(シティコン海底山脈研究会代表)

住吉泰男((公財)東京都慰霊協会理事長)

高橋正征(東京大学名誉教授、(公社)日本水産資源保護協会会長)

瀧澤一郎(NPO 法人東京いのちのポータルサイト理事長、東京和晒(株)代表取締役)

武田真典((一社)水産土木建設技術センター調査研究部上席研究員)

西川 智(名古屋大学減災連携研究センター教授)

橋本正法(NPO 法人地域交流センター代表理事)
 原 香織(シティコン海底山脈研究会事務局長、みらくル TV 番組編成部長)

青柳好幸(第一回全国 Zoom 囲碁大会優勝者、学校囲碁指導員)
 安達司郎(NPO 法人東京いのちのポータルサイト監事)
 阿部貴弘(大学講師、会社員)
 池田親生(竹明かり演出家)
 石原寛之(会社員 東京都杉並区)
 石原洋子(会社員 東京都杉並区)
 市川啓一((株)レスキューナウ危機管理研究所代表取締役)
 出縄守英((社福)進和学園理事長)
 稲垣弘子(UIFA JAPON(国際女性建築家会議 日本支部 監事))
 井上信之(日本棋院アトムネット支部事務局長)
 植田全紀(全栄物産株式会社 代表取締役)
 内海智子(NPO 法人ドリームエナジープロジェクト 理事長)
 大石明広(NPO法人暮らしと耐震協議会事務局長)
 大橋幸多(食と文化の研究所代表)
 大山桂司(一般社団法人視覚応援センターライトアイくまもと 理事)
 岡田公夫(あいち防災リーダー会会長)
 岡田結美子(日本棋院六段)
 岡本 博((株)岡本建築設計事務所長)
 長船 至((株)アイ・エス・エム 取締役社長、元韓国東洋エンジニアリング(株)副社長)
 小田順子((株)ことのは本舗代表取締役)
 片岡亮太(和太鼓奏者、パーカッショニスト、社会福祉士、全盲)
 加藤吉晴(NPO 法人チームみらい中津川市防災市民会議代表、歯科医師)
 鎌田健司((株)環境総合研究所 代表取締役)
 河合 眞(ウイグル文学研究者)
 金 昌治(日本棋院大船渡支部長)
 熊沢博樹(湘南ウキブイ代表理事)
 栗城優子(フォーラム大田高次脳代表、高次脳機能障がいと囲碁の会)
 栗山宗大(映画作家／ものがたり法人ファイアーワークス取締役／明治学院大学講師)
 小村隆史(常葉大学社会環境学部 防災・地域安全コース准教授)
 櫻井 純(櫻スタートラベル合同会社 代表)
 佐々木征博(海洋深層水高度利用推進研究協会)
 佐藤良守(ケミカルサービス株式会社 代表取締役)
 佐藤有衣子(自営業・東京都渋谷区)
 佐野和子(心の唄バンド、手話通訳)
 獅子山淳三(臨床心理研究者、心理カウンセラー)
 篠原憲一(前ひらつか防災まちづくりの会代表)
 東海林 修(慶應義塾全国通信三田会、慶應義塾神奈川通信三田会)
 将積哲也(株式会社ユニテディア 代表取締役)
 寿乃田正人(NPO法人東京いのちのポータルサイト副理事長、(一社)福祉防災コミュニティ協会理事)
 聖成崇夫(囲碁伊勢山道場席主、宅地建物取引士)

武久喜代美(日本棋院小倉支部事務局長)
 高木幸三(新栄不動産ビジネス(株)最高顧問)
 谷 俊朗(東京農工大学名誉教授)
 玉木和彦(脳損傷・高次脳機能障害サークルエコー代表)
 友野秀樹(一般社団法人シンクロプラス 代表理事)
 中里利男(平塚盲学校囲碁ボランティア世話人)
 中瀬勝義(海洋観光研究所所長)
 中谷幸俊(IT バリューアソシエイツ(株)代表取締役)
 中村哲啓(日本大学豊山中学・高校囲碁部コーチ)
 新嶋光晴((株)セブンシーズ代表取締役社長、プロ・ウィンドサーファー)
 新沼岩保(首都圏さんりく大船渡人会相談役、岩手県人連合会幹事、地質コンサルタント)
 二宮正男((社福)進和学園法人統括施設長、囲碁部長)
 信田成仁(日本棋院六段)
 林 晶弘(シティコン海底山脈研究会)
 羽田修治(靱の浦・さくらホーム経営者)
 羽田富美江(福山市・靱の浦さくらホーム施設長)
 久武経夫(エースコンサルタンツ(株)東京支店技術顧問)
 深田一元(専門学校講師、元公立高等学校長)
 深田久美子(元小学校教師)
 藤田景子(准教授 助産師)
 藤村望洋(俳句の ARC セッション主宰、NPO 法人東京いのちのポータルサイト副理事長)
 古田信子(川崎市)
 松岡康男(IVI(インダストリアルバリューチェーンイニシアティブ)東芝グループ幹事長)
 松田佐知子(心の唄バンドマネージャー)
 松原安子(三社自動車(株)代表取締役社長、(一社)宮古市観光文化交流協会監事)
 真殿 達(麗澤大学名誉教授)
 三竹真知子(青葉ふれあいの会代表、ソーシャル・エディター)
 水間俊文(日本棋院八段)
 森本陽子(座・茶論(The Salon)主宰)
 山村優子(フレンチホルン奏者、作曲・編曲家)
 横内康行(東京セルフセンター事務局長、NPO 法人東京いのちのポータルサイト監事)

賛同署名サイト

https://miracletv.site/?page_id=11554



【参考資料】

I 「第九回首都防災ウィーク記念冊子—論文集—」

<http://miracletv.site/>(みらくる TV サイト)、<https://shutobo.net/>(首都防災サイト)に掲載。

シティコン海底山脈関連論文は次です。

1 「強靱で持続可能な資源循環システムの必要性」

大迫政浩(国立環境研究所資源循環領域長)

- 2 「何のために、誰のために備え、救い、復興するのか～今一度、考えてみてほしいこと～
古本 聡((株)土屋 取締役・最高文化責任者、土屋総合研究所長、脳性麻痺)
- 3 「コンクリート塊の新たな利活用戦略を一廃棄物から国土資源へ」
中林一樹(東京都立大学名誉教授、首都防災ウィーク実行委員会代表)
- 4 「世界の漁獲量の漸減と海洋生態系・環境の再生」
高橋正征氏(東京大学名誉教授、(公社)日本水産資源保護協会会長)
- 5 「人工海底山脈(マウンド礁)の造成技術と整備効果」
武田真典氏((一社)水産土木建設技術センター 調査研究部上席研究員)
- 6 「持続可能な首都の事前復興計画」
鈴木達雄氏(シティコン海底山脈研究会代表)
- 7 「広域巨大地震時におけるコンクリートガラの海洋利用プラットフォームの構築」
有川太郎氏(中央大学教授)
- 8 「陸域と海域をまたがる新たな資源循環で一石四鳥の win-win-win-win を！」
西川 智氏(名古屋大学減災連携研究センター教授)
- 9 「首都防災フォーラムの新たな役割、異分野コラボレーション」
岡野谷 純氏(NPO 法人日本ファーストエイドソサエティ代表)

II シティコン海底山脈建設の規模・費用と事業効果の推定(首都防災ウィーク・シティコン研究会試算)

- 1 平時のシティコン排出量の6%程度を活用することで、一基30万トンの海底山脈を30年間に200基建設することが可能(事業費は一基14.3億円×200基＝2,860億円程度)。
巨大震災時には、整備計画の前倒しや既存海底山脈のかさ上げで対応します。
- 2 漁業振興効果(費用便益比)は2.8兆円(事業費の10倍程度)。基礎となる費用便益比は、国直轄事業平均の2.59を使用。平時のみならず、巨大震災時には首都機能と全国の社会経済の迅速な復興と全国の海域の環境再生と沿岸漁業の復活に貢献できます。

III 関連動画

- 1 テーマソング「未来の海」(大石亜矢子 作詞・作曲・弾き語り)

<https://youtu.be/lbbSS-1JPzY>

- 2 豊穡の海(ゆりか 4分)

<https://www.youtube.com/watch?v=ypEq5FJjcPQ>

- 3 「シティコン海底山脈」スピーチ集(15分)

<https://www.youtube.com/watch?v=wH6suHlvW0o>

- 4 ぼうさいこくたい2021プレゼン集(1時間34分)

<https://www.youtube.com/watch?v=de5ljbXdpxk>



未来の海(歌)



豊穡の海



スピーチ集



ぼうさいこくたい 2021

【問い合わせ先】 木谷(080-7991-4761、kitanimasa4@gmail.com)

人生に寄り添う囲碁ーレポート「誰でも囲碁大会」【コラム：品田溪】

※当日取材してくださった囲碁ライターの品田溪氏が、日本棋院のホームページにコラムをすばらしいコラムを執筆されました（2022年08月30日）。感謝を込めて、転載させていただきます。

<https://www.nihonkiin.or.jp/etc/writer/column20220830.html>

囲碁を打ちたい人ならば誰でも、年齢性別関係なく障害があってもなくても、文字どおりだれでも参加できる「誰でも囲碁大会」が8月28日（日）日本棋院で開催された。

旗振り役となったのは盲目者用の碁盤「アイゴ」の普及を行っている柿島光晴さんだ。長年の普及活動を通して知り合った人たちに声を掛け、ネット上でも広く参加者を募ったところ、すぐに定員いっぱいになった。参加者80人のうち20人が障害を抱えており、その障害は視覚障害、聴覚障害、高次機能障害、発達障害、脳性麻痺とさまざま。障害の種類によって必要なサポートはあるものの、盤上では誰もが対等に勝負をし、コミュニケーションを楽しんだ。

「社会には障害がある人もない人も同じように暮らしている。だから、社会がそうであるように、障害者も健常者も一緒に囲碁を楽しみたいし、そうあるべきではないかと思いました」と柿島さん。柿島さん自身はこれまで数多くの囲碁大会に参加してきたが、やはり障害を持つ人にとって、一般の大会に一人で参加するのはハードルが高い。そこで今回は「誰でも」と銘打つことで障害があっても参加できることを強調した。柿島さんは「いずれはすべての大会で誰でも気軽に参加できるようにになれば」と語る。

誰でも囲碁大会では他の大会では見たことがないような光景がたくさんあった。例えば、視覚障害を持つ人が対局する場合はアイゴを用い、対局者は盤を触って石の位置を確かめる。脳性麻痺の人が対局する場合は手が震えてしまうため、誰かが石の位置を直すサポートをしたり、「4の十六」

のように番号で着手を伝えたりする。しかしひとたび盤上に目を移すとそこには見慣れた光景が広がっていた。

40年ぶりに碁石を握ったという脳性麻痺を持つ古本聡さんは「ずいぶん久しぶりだったけど、意外に覚えているものですね」と話し、「私は番号で着手を伝えてもいいし、（視覚障害を持つ方との対局では）相手の手を取って着手を教えてもいい。それぞれ違うやり方だけれど同じ碁を打つというのは、異種格闘技のよう。今、盛んにインクルーシブとかダイバーシティといったことが叫ばれていますが、その本当の意味を知っている人が何人いるでしょう」と投げかけた。

参加者80人のうち、60人は健常者だ。親子で参加していた小学2年生の林蔵之道くんは「二段で出て全敗してしまっただけど、いろいろな人と打って嬉しかった。アイゴもできて楽しかった」と話した。対局するうちに次第に外形的なことは気にならなくなり、人と人とのコミュニケーションだけが残る。できること、できないこと、囲碁歴、きっかけ、動機、それぞれの人が持つバックボーンは違うけれど、「碁を楽しみたい」という核があると違いを超えて心を通わせられる。

柿島さんは失明後、囲碁以外のゲームもいろいろ試したという。その中で「一番心がつながり合う感じがしたのが囲碁だった」と話す。他にも「囲碁は特別な趣味」という声は多く聞かれた。楽しみとなり、人とのつながりを助け、世界を広げ、癒してくれる。愛好家にとって囲碁は人生にそっと寄り添ってくれる友達のような存在なのだと取材を通じて思った。

